

日立ヴァンタラ 株式会社

取 扱 説 明 書

Simple Server Console

操 作 編

は じ め に

本書は Simple Server Console について説明するものです。

■ 対象読者

この取扱説明書は、次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- ・ Simple Server Console の操作方法を知りたい方

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI、JP1 は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

Microsoft Edge は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 関連取扱説明書

この取扱説明書の関連取扱説明書を次に示します。必要に応じてお読みください。

- ・ 取扱説明書 Simple Server Console 構築編

■ 略語について

この取扱説明書では、以下の略語を使用します。

略語	意味
HCI	Hyper-Converged Infrastructure
FW	Firmware
SW	Software
SUM	Smart Update Manager
iSUT	Integrated Smart Update Tools
SPH	Service Pack for HA8000V
SPR	Service Pack for RV3000
JP1/A0	JP1/Automatic Operation
GiB	gibibyte (1GiB = 1,073,741,824 バイト)
VM	Virtual Machine
AMS	Agentless Management Service
LUN	Logical Unit Number
NIC	Network Interface Card
VLAN	Virtual LAN
iLO	integrated Lights-Out
RMC	Rack Management Controller

■ お問い合わせ窓口

技術的なお問い合わせについてはサポートサービスをご契約が必要です。サポートサービスに関しては以下の URL で参照ください。

「日立サポート 360」

<https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/support360/>

■ 発行

2025 年 6 月 (第 7 版)

■ 来歴

版数	取扱説明書番号	発行日	説明
初版	061539	2022 年 7 月	初版
第 2 版	061703	2022 年 11 月	・ サーバーの利用状況の取得の設定と結果のダウンロード機能をサポートしました。
第 3 版	061813	2023 年 2 月	・ ログの定期採取設定とログのダウンロード機能をサポートしました。

第 4 版	061868	2023 年 5 月	・ログの送信機能をサポートしました。 ・構成情報ログの定期採取設定とダウンロードと送信機能をサポートしました。 ・管理対象サーバーに RV3000 を追加しました。
第 5 版	4071-1J-113	2024 年 6 月	・ヘルプを追記しました。 ・EverFlex From Hitachi 関連サービス向け機能を追加しました。
第 6 版	4071-1J-113-10	2025 年 4 月	・温度情報の表示機能の説明を追加しました ・サーバーの利用状況の取得の設定と結果のダウンロード機能は、バージョン 1.4.0 以降は非サポートを追記しました。 ・JP1/A0 連携機能の注意を追記しました。 ・発行元の社名変更
第 7 版	4071-1J-113-20	2025 年 6 月	・構成情報ログ採取に関する注意事項を追加しました。

■ 著作権

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

All Rights Reserved. Copyright (C) 2022, 2025, Hitachi Vantara, Ltd.

目 次

1. はじめに	1
1. 1 Simple Server Consoleのユースケース	1
1. 2 対象環境	1
1. 3 事前準備	1
2. 管理者の操作	3
2. 1 初期設定	3
2. 2 メンバの追加・編集・削除	8
2. 3 システム設定の追加・編集・削除	11
2. 3. 1 HA8000V/RV3000の場合	11
2. 3. 2 vCenterの場合	17
2. 4 ディスカバリ	22
2. 5 設定のエクスポート・インポート	29
3. 運用者の操作(共通機能)	31
3. 1 ログイン・ログアウト	31
3. 2 構成の確認	34
3. 2. 1 HA8000V/RV3000の構成確認	34
3. 2. 2 vCenterの構成確認	47
3. 3 ジョブの実行・確認	54
3. 3. 1 HA8000V/RV3000へのジョブ実行	54
3. 3. 2 vCenterへのジョブ実行	58
3. 3. 3 ジョブの確認	68
3. 4 構成情報のエクスポート	74
3. 5 構成履歴の保存	76
3. 6 温度情報のエクスポート	77
3. 7 ヘルプ	78
3. 7. 1 ユーザーズガイド	78
3. 7. 2 バージョン情報	79
4. 運用者の操作(各種サービス利用者向け機能)	79
4. 1 JP1/A0連携機能	79
4. 1. 1 vSANローリングアップデートの準備(システム単位) - 基本設定	81
4. 1. 2 vSANローリングアップデートの準備(システム単位) - データセット	82
4. 1. 3 vSANローリングアップデートの準備(システム単位) - vSAN HCL DB更新ファイル	83
4. 1. 4 vSANローリングアップデートの準備(クラスタ単位) - ESXi情報設定	84
4. 1. 5 vSANローリングアップデートの準備(クラスタ単位) - DRS情報設定	85
4. 1. 6 vSANローリングアップデートの実行	86
4. 1. 7 vSANローリングアップデートのジョブの確認	89
4. 1. 8 サーバーFW/SWバージョンの取得	92
4. 2 サーバーの利用状況の取得の設定と結果のダウンロード機能	94

4. 2. 1	サーバーの利用状況の取得・蓄積の設定	94
4. 2. 2	対象サーバー利用状況のダウンロード	95
4. 2. 3	サーバー利用状況サマリのフォーマット	98
4. 2. 4	取得データリストのフォーマット	99
4. 3	ログの定期採取設定とログのダウンロードとログの送信機能	100
4. 3. 1	ログの定期採取設定	101
4. 3. 2	ログのダウンロード	103
4. 3. 3	構成情報ログのダウンロード	105
4. 3. 4	ログファイル転送先サーバーに送信されるファイル	107
4. 3. 5	運用ログに含まれるファイル	107
4. 3. 6	稼働状況ログに含まれるファイル	107
4. 3. 7	ログ内訳リストのフォーマット	108
4. 3. 8	ログファイル転送先サーバーの要件	108
5.	リファレンス	108
5. 1	よくあるご質問	108
5. 2	注意事項および制限事項	112

1. はじめに

本書では、Simple Server Console の基本的な使用方法について説明します。

Simple Server Console は、システム基盤の論理構成および物理構成の情報を可視化し、運用時の定型操作を自動実行できるツールです。

1. 1 Simple Server Console のユースケース

- ・ 環境構築時の確認
システム基盤の論理構成および物理構成の情報を視覚的に確認できます。
- ・ 運用時の定型操作
指定の仮想マシンまたは機器に対して、スケジュールを指定して定型操作を自動実行できます。
- ・ 構成変更の管理
構成履歴機能により、過去の構成の状態を確認できます。
- ・ vSAN ローリングアップデートの実行(日立 HCI ソリューション for VMware vSAN 向け機能)
日立 HCI ソリューション for VMware vSAN をお使いのお客様は、JP1/A0 連携機能を使用して Simple Server Console の GUI から vSAN ローリングアップデート等、JP1/A0 の操作を実行することができます。
- ・ ログの定期採取(ハードウェア安定稼働支援サービス向け、EverFlex From Hitachi 関連サービス向け機能)
ハードウェア安定稼働支援サービスや EverFlex From Hitachi 関連サービスで必要となる構成情報ログまたは稼働状況ログの定期採取、ダウンロード、およびログの送信を行うことができます。
- ・ 環境温度を 28℃以下にする必要がある機器に対して、入気温度が 28℃以下に維持されていることを監視することができます。

1. 2 対象環境

- ・ HA8000V/RV3000
- ・ VMware vSphere 環境

1. 3 事前準備

本システムでは Web ブラウザを使用します。Simple Server Console にアクセスするクライアント PC に下記の Web ブラウザのいずれかを用意し、JavaScript が無効になっている場合は有効化を実施してください。

使用できる Web ブラウザ

- ・ Microsoft Edge 80 以降
- ・ Google Chrome 80 以降

JavaScript の有効化

- Microsoft Edge の場合
 - ① Edge を開き、右上の[・・・]-[設定]の順にクリックする。
 - ② [サイトのアクセス許可]をクリックする。
 - ③ [Javascript]をクリックする。
 - ④ [許可 (推奨)]をオンにする。

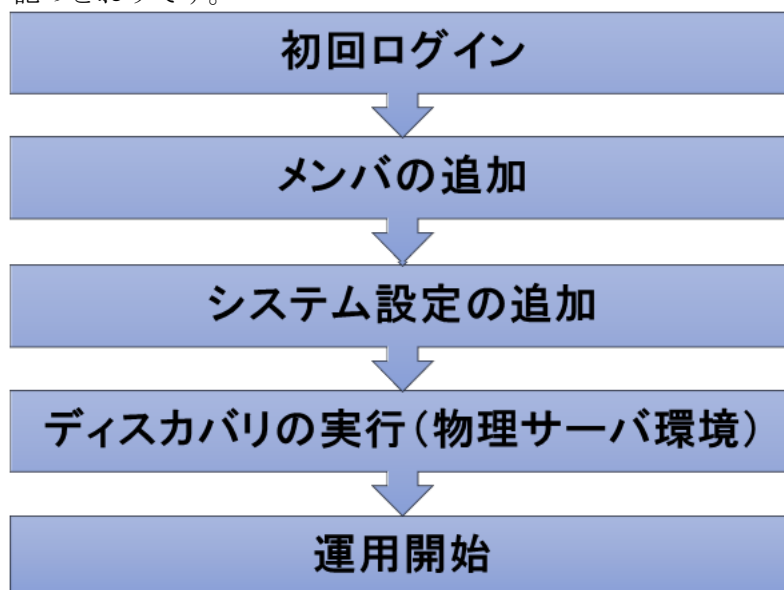
- Google Chrome の場合

- ⑤ Chrome を開き、右上のその他アイコン – [設定] の順にクリックします。
- ⑥ [プライバシーとセキュリティ] で [サイトの設定] をクリックします。
- ⑦ [Javascript] をクリックします。
- ⑧ [許可 (推奨)] をオンにします。

2. 管理者の操作

2. 1 初期設定

運用開始までの流れは下記のとおりです。



(1) 初回ログイン

Simple Server Console にログインするには下記の URL にアクセスしてください。使用できる Web ブラウザは、「1. 3 事前準備」を参照してください。

URL : http://Simple Server Console のホスト名 (または IP アドレス)/	(HTTP 接続の場合)
URL : https://Simple Server Console のホスト名 (または IP アドレス)/	(HTTPS 接続の場合)

URL にアクセスすると次のログインフォーム画面が表示されます。初回ログイン時は、初回ログイン用のユーザーとパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックしてログインしてください。

Simple Server Console

ユーザー:

パスワード:

ログイン

初回ログイン用のユーザーとパスワード

ユーザー	: opsadmin
パスワード	: P@ssw0rd

初回ログインすると、必ずパスワードの変更画面に遷移します。任意の新しいパスワードを入力して[保存]ボタンをクリックしてください。パスワードの有効期間は 180 日間です。有効期間を過ぎてからログインした場合、パスワードの変更画面に遷移します。

Simple Server Console

opsadmin

メニュー

ヘルプ

設定

パスワードの変更

元のパスワード:

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

説明

変更するパスワード情報を入力してください。
 パスワードポリシー

- 8文字以上、16文字以下
- 文字、数字が1文字以上含まれる
- 元のパスワードと同じ文字列は不可
- 180日間有効

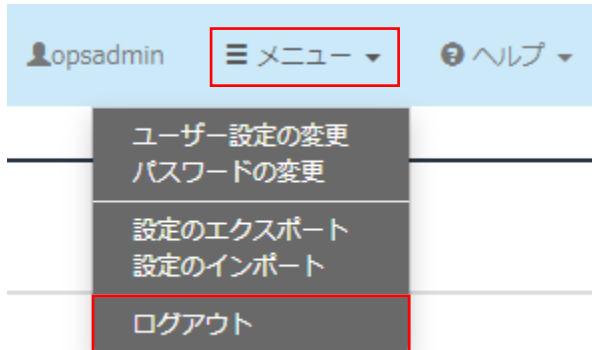
保存

キャンセル

「opsadmin」は、Simple Server Console で最も強い権限であるオーナー権限を持つ初期ユーザーです。「opsadmin」で、オーナー権限を持つユーザーを追加した後、「opsadmin」を削除することを推奨します。

操作の実行に必要な権限については、「5. 1 よくあるご質問」を参照してください。

Simple Server Console からログアウトするには、画面右上の[メニュー] - [ログアウト]メニューをクリックしてください。ログアウトするとログインフォーム画面に遷移します。



(2) メンバの追加

Simple Server Console では、Simple Server Console へログインをするためのメンバを追加する必要があります。Simple Server Console を使用できるのはメンバとして登録されているユーザーのみです。「2. 2 メンバの追加・編集・削除」を参照して、メンバを追加してください。

(3) システム設定の追加

システムとは、Simple Server Console の管理対象となる物理サーバー環境および仮想サーバー環境を一括りにする概念です。Simple Server Console には複数のシステムを定義することができます。

構成図の表示やジョブの管理を行うためのシステムを追加します。システムを追加すると、構成情報の取得や定型ジョブの実行ができるようになります。「2. 3 システム設定の追加・編集・削除」を参照して、システムの設定を追加してください。

なお、各機能を使用する時に、追加が必要なシステムは以下です。

No.	機能	物理サーバー環境 (HA8000V/RV3000)のシステム	仮想サーバー環境(vCenter) のシステム
1	JP1/A0 連携機能(日立 HCI ソリューション for VMware vSAN 向け機能)	必須	必須
2	サーバーの利用状況の取得の設定と結果のダウンロード(IT 基盤ユーティリティサービス向け機能)	必須	任意
3	ログの定期採取設定とログのダウンロードとログの送信(ハードウェア安定稼働支援サービス向け、EverFlex From Hitachi 関連サービス向け機能)	必須	任意
4	HA8000V/RV3000 の構成確認 HA8000V/RV3000 へのジョブ実行 温度情報のエクスポート	必須	任意
5	vCenter の構成確認 vCenter へのジョブ実行	任意	必須
6	(HA8000V/RV3000 構成情報) 構成情報のエクスポート 構成履歴の保存	必須	任意
7	(vCenter 構成情報) 構成情報のエクスポート 構成履歴の保存	任意	必須
8	その他の機能	任意	任意

(4) ディスカバリの実行 (物理サーバー環境)

本作業は仮想サーバー環境では不要です。

ディスカバリとは、ネットワーク上のサーバー機器を探索し、Simple Server Console で管理可能な機器を発見する機能です。

物理サーバー環境では、ディスカバリで発見した機器を管理対象とすることで、構成図の表示やジョブを実行できるようになります。「2. 4 ディスカバリ」を参照して、ネットワーク上のサーバー機器の探索を実行してください。

以上で初期設定は完了です。

2. 2 メンバの追加・編集・削除

メンバの追加・編集・削除にはオーナー権限が必要です。

(1) メンバの追加

メンバ画面の上部にある[メンバの追加]ボタンをクリックしてください。

Simple Server Console

opsadminメニューヘルプ

メンバシステムシステムビュー運用ジョブ

メンバの追加

ユーザーID	メールアドレス	権限	操作
opsadmin		オーナー権限	メンバの編集削除
opsuser		閲覧権限	メンバの編集削除
opsmember		メンバ権限	メンバの編集削除
opsowner		オーナー権限	メンバの編集削除

[メンバの追加]ダイアログが表示されるので、各項目を入力して、[保存]ボタンをクリックしてください。

メンバの追加

ユーザーID:

メールアドレス:

権限:

閲覧権限

説明

追加するメンバの情報とその権限を入力してください。

保存キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
9	ユーザーID※	任意のユーザーID を一意になるように入力します。
10	メールアドレス	メンバの情報としてメールアドレスを入力します。メール送信機能はありません。

No.	項目	説明
11	権限※	メンバに付与する権限をドロップダウンリストから選択します。権限の種類は次のとおりです。 ● 閲覧権限 情報の参照のみが可能な権限です。 ● メンバ権限 メンバ用の権限です。オーナー権限に対して一部機能の使用ができません。 ● オーナ権限 管理者用の権限です。すべての操作が可能です。 操作の実行に必要な権限については、「5. 1 よくあるご質問」を参照してください。

※入力必須の項目です。

追加したメンバが初めてログインするときの方法やパスワードの変更方法などについては、「3. 1 ログイン・ログアウト」を参照してください。

(2) メンバの編集

メンバ画面で[メンバの編集]をクリックすると、登録済みのメンバの内容を編集できます。編集できる項目はメールアドレスおよび権限です。ただし、編集しているユーザー本人の権限は変更できません。

Simple Server Console			
		opsadmin	メニュー ヘルプ
メンバ システム システムビュー 運用ジョブ			
メンバの追加			
ユーザーID	メールアドレス	権限	操作
opsadmin		オーナー権限	メンバの編集 削除
opsuser		閲覧権限	メンバの編集 削除
opsmember		メンバ権限	メンバの編集 削除
opsowner		オーナー権限	メンバの編集 削除

メンバの編集

ユーザーID:
opsadmin

メールアドレス:

権限:
オーナー権限

説明

このメンバの情報を入力してください。

保存

キャンセル

各項目の説明は「(1)メンバの追加」を参照してください。

(3) メンバの削除

メンバ画面で[削除]をクリックすると、メンバを削除できます。ただし、編集しているユーザー本人は削除できません。メンバを削除した後にメンバ設定の復元は行えませんので、ご注意ください。

Simple Server Console			
opsadmin メニュー ヘルプ			
メンバ システム システムビュー 運用ジョブ			
メンバの追加			
ユーザーID	メールアドレス	権限	操作
opsadmin		オーナー権限	メンバの編集 削除
opsuser		閲覧権限	メンバの編集 削除
opsmember		メンバ権限	メンバの編集 削除
opsowner		オーナー権限	メンバの編集 削除

2. 3 システム設定の追加・編集・削除

システム設定の追加・編集・削除にはオーナー権限またはメンバ権限が必要です。

2. 3. 1 HA8000V/RV3000 の場合

(1) HA8000V/RV3000 システムの追加

システム画面の上部にある[システムの追加]ドロップダウンリストから[HITACHI HA8000V/RV3000 Series]を選択してください。

Simple Server Console

opsadmin メニュー ヘルプ

メンバ **システム** システムビュー 運用ジョブ

システムの追加

HITACHI HA8000V/RV3000 Series

vCenter Server

HITACHI HA8000V/RV3000 Series

	名前	説明	操作
	HA8000V Series		システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 6		システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 7		システムビューへ

[HA8000V/RV3000 システムの追加] ダイアログが表示されるので、各項目を入力して、[保存] ボタンをクリックしてください。

HA8000V/RV3000 システムの追加

名前:

説明

HA8000V/RV3000 システムの構成を取得するための情報を入力してください。

説明:

構成情報の自動取得間隔(分):

15

ログファイル転送先サーバーIPアドレス:

ログファイル転送先サーバーユーザ名:

ログファイル転送先サーバーパスワード:

運用ログ:

送信しない

稼働状況ログ:

送信しない

構成情報ログ:

送信しない

保存

キャンセル

各入力項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	名前※ ¹	任意の名称を入力します。ここに設定した名称が追加するシステム設定の表示名になります。
2	説明	任意の説明を入力します。
3	構成情報の自動取得間隔(分)※ ¹	構成情報を取得する間隔(分)を 1～60 の範囲で指定します。デフォルト値は 15 です。
4	ログファイル転送先サーバーIP アドレス※ ²	ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスで使用します。 ログファイル転送先サーバーの IP アドレスを指定します。 ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は空欄にしてください。
5	ログファイル転送先サーバーユーザ名※ ²	ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスで使用します。 ログファイル転送先サーバーのユーザ名を指定します。

No.	項目	説明
		ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は空欄にしてください。
6	ログファイル転送先サーバーパスワード※2	ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスで使します。 ログファイル転送先サーバーのパスワードを指定します。 ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は空欄にしてください。
7	運用ログ※1	今後拡充するサービスで使用する予定の機能です。「送信しない」から変更しないでください。
8	稼働状況ログ※1	EverFlex From Hitachi 関連サービスで使用する機能です。 ログファイル転送先サーバーに稼働状況ログを送付する場合は「送信する」を、送付しない場合は「送信しない」を選択してください。 EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は、「送信しない」を選択してください。
9	構成情報ログ※1	ハードウェア安定稼働支援サービスで使用する機能です。 ログファイル転送先サーバーに構成情報ログを送信する場合は「送信する」を、送信しない場合は「送信しない」を選択してください。 ハードウェア安定稼働支援サービスを使用しない場合は、「送信しない」を選択してください。

※1 入力必須の項目です。

※2 ログファイル転送先サーバーの詳細については、4. 3. 8項を参照してください。

(2) HA8000V/RV3000 のシステム設定編集

システム画面の右側にあるドロップダウンリストから[HA8000V/RV3000 システムの編集]を選択すると、HA8000V/RV3000 システムの設定を編集できます。

Simple Server Console

opsadmin メニュー ヘルプ

メンバ システム システムビュー 運用ジョブ

システムの追加

種別	名前	説明	操作
HITACHI HA8000V/RV3000 Series	HA8000V Series		システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 6		HA8000V/RV3000 システムの編集 削除
vCenter Server	vCenter Server 7		システムビューへ

HA8000V/RV3000 システムの編集

名前:

HA8000V Series

説明

HA8000V/RV3000 システムの構成を取得するための情報を入力してください。

説明:

構成情報の自動取得間隔(分):

15

ログファイル転送先サーバーIPアドレス:

ログファイル転送先サーバーユーザ名:

ログファイル転送先サーバーパスワード:

運用ログ:

送信しない

稼働状況ログ:

送信しない

構成情報ログ:

送信しない

保存

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	名前※ ¹	システム設定の表示名です。
2	説明	システム設定の説明です。
3	構成情報の自動取得間隔(分) ※ ¹	構成情報を取得する間隔(分)を 1～60 の範囲で変更できます。
4	ログファイル転送先サーバーIPアドレス ※ ²	ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスで 使用します。 ログファイル転送先サーバーの IP アドレスを指定します。 ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は空欄にしてください。
5	ログファイル転送先サーバーユーザー名 ※ ²	ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスで 使用します。 ログファイル転送先サーバーのユーザー名を指定します。 ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は空欄にしてください。
6	ログファイル転送先サーバーパスワード ※ ²	ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスで 使用します。 ログファイル転送先サーバーのパスワードを指定します。

No.	項目	説明
		ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は空欄にしてください。
7	運用ログ※1	今後拡充するサービスで使用する予定の機能です。「送信しない」から変更しないでください。
8	稼働状況ログ※1	EverFlex From Hitachi 関連サービスで使用する機能です。 ログファイル転送先サーバーに稼働状況ログを送付する場合は「送信する」を、送付しない場合は「送信しない」を選択してください。 EverFlex From Hitachi 関連サービスを使用しない場合は、「送信しない」を選択してください。
9	構成情報ログ※1	ハードウェア安定稼働支援サービスで使用する機能です。 ログファイル転送先サーバーに構成情報ログを送信する場合は「送信する」を、送信しない場合は「送信しない」を選択してください。 ハードウェア安定稼働支援サービスを使用しない場合は、「送信しない」を選択してください。

※1 入力必須の項目です。

※2 ログファイル転送先サーバーの詳細については、4. 3. 8項を参照してください。

● 注意事項

システム内に温度情報を表示する設定とした温度情報を監視しているサーバー機器が存在する場合、「構成情報の自動取得間隔(分)」を15分以下に設定してください。

温度情報の表示については、「3. 2. 1 (6) 温度情報の表示・非表示」を参照してください。

(3) HA8000V/RV3000 システムの削除

システム画面の右側にあるドロップダウンリストから[削除]を選択すると、HA8000V/RV3000 のシステム設定を削除できます。システム設定を削除した後にシステム設定の復元は行えませんので、ご注意ください。

Simple Server Console

opsadmin メニュー ヘルプ

メンバ システム システムビュー 運用ジョブ

システムの追加▼

種別	名前	説明	操作
HITACHI HA8000V/RV3000 Series	HA8000V Series		システムビューへ ▼
vCenter Server	vCenter Server 6		HA8000V/RV3000 システムの編集 削除
vCenter Server	vCenter Server 7		システムビューへ ▼

- **注意事項**

システム設定を削除すると、関連するジョブおよびタスクも連動して削除されます。
そのため、スケジュール中のジョブ、タスクがエラーとなることがあります。

2. 3. 2 vCenter の場合

(1) vCenter システムの追加

システム画面の上部にある[システムの追加]ドロップダウンリストから[vCenter Server]を選択してください。



The screenshot shows the 'Simple Server Console' interface. At the top, there is a navigation bar with 'メンバ', 'システム' (highlighted with a red box), 'システムビュー', and '運用ジョブ'. Below this is a 'システムの追加' dropdown menu. The main area displays a table with columns '名前', '説明', and '操作'. The table lists three vCenter Servers: 'HITACHI HA8000V/RV3000 Series vCenter Server', 'vCenter Server 6', and 'vCenter Server 7'. The first row is highlighted with a red box. Each row has a 'システムビューへ' button with a dropdown arrow.

システムの追加▼	名前	説明	操作
HITACHI HA8000V/RV3000 Series vCenter Server	HA8000V Series		システムビューへ ▼
vCenter Server	vCenter Server 6		システムビューへ ▼
vCenter Server	vCenter Server 7		システムビューへ ▼

[vCenter の追加]ダイアログが表示されるので、各項目を入力して、[保存]ボタンをクリックしてください。

vCenter システムの追加

×

名前:

説明

vCenter システムの構成を取得するための情報を入力してください。

説明:

構成情報の自動取得間隔(分):

15

ホスト名:

ユーザ:

パスワード:

データセンタ名:

JP1/AOのURL:

JP1/AOのユーザ名:

JP1/AOのパスワード:

保存

キャンセル

各入力項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	名前※	任意の名称を入力します。ここに設定した名称が追加するシステム設定の表示名になります。
2	説明	任意の説明を入力します。
3	構成情報の自動取得間隔(分)※	構成情報を取得する間隔(分)を 1～60 の範囲で指定します。デフォルト値は 15 です。
4	ホスト名※	vCenter のホスト名または IP アドレスを入力します。なお、vCenter の HTTPS ポートをデフォルトの 443 から変更している場合は、「ホスト名または IP アドレス:ポート番号」の形式で入力してください。
5	ユーザ※	vCenter に接続するためのユーザー名を入力します。大文字と小文字に注意して入力してください。
6	パスワード※	vCenter に接続するためのユーザーのパスワードを入力します。
7	データセンタ名※	vCenter 内に構成されるデータセンタ名を入力します。 大文字と小文字は区別されます。
8	JP1/AO の URL	JP1/AO を使用する場合、JP1/AO の URL を入力します。

No.	項目	説明
9	JP1/A0 のユーザ名	JP1/A0 を使用する場合、JP1/A0 のユーザー名を入力します。
10	JP1/A0 のパスワード	JP1/A0 を使用する場合、JP1/A0 のパスワードを入力します。

※入力必須の項目です。

[保存]ボタンをクリックすると、vCenter に接続できるかどうかチェックをおこないます。接続できない場合はエラーメッセージが表示され、vCenter のシステム設定は追加されません。[vCenter の追加]ダイアログの入力内容を見直すか、環境設定を見直してください。

● 注意事項

[構成情報の自動取得間隔(分)]の値を小さくすると、1 回の構成情報取得が完了する前に次の構成情報取得を開始し、完了までに時間がかかることがあります。その場合は vCenter の編集画面で値を変更してください。vCenter の編集画面については、「(2)vCenter システムの編集」を参照してください。

(2) vCenter システムの編集

システム画面の右側にあるドロップダウンリストから[vCenter システムの編集]を選択すると、vCenter のシステム設定を編集できます。

The screenshot shows the 'Simple Server Console' interface. At the top, there's a header with 'Simple Server Console' and user 'opsadmin'. Below the header is a navigation bar with tabs: 'メンバ', 'システム' (selected), 'システムビュー', and '運用ジョブ'. Under the 'システム' tab, there's a 'システムの追加' button. The main area contains a table with columns: '種別', '名前', '説明', and '操作'.

種別	名前	説明	操作
HITACHI HA8000V/RV3000 Series	HA8000V Series		システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 6		システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 7		vCenter システムの編集 削除

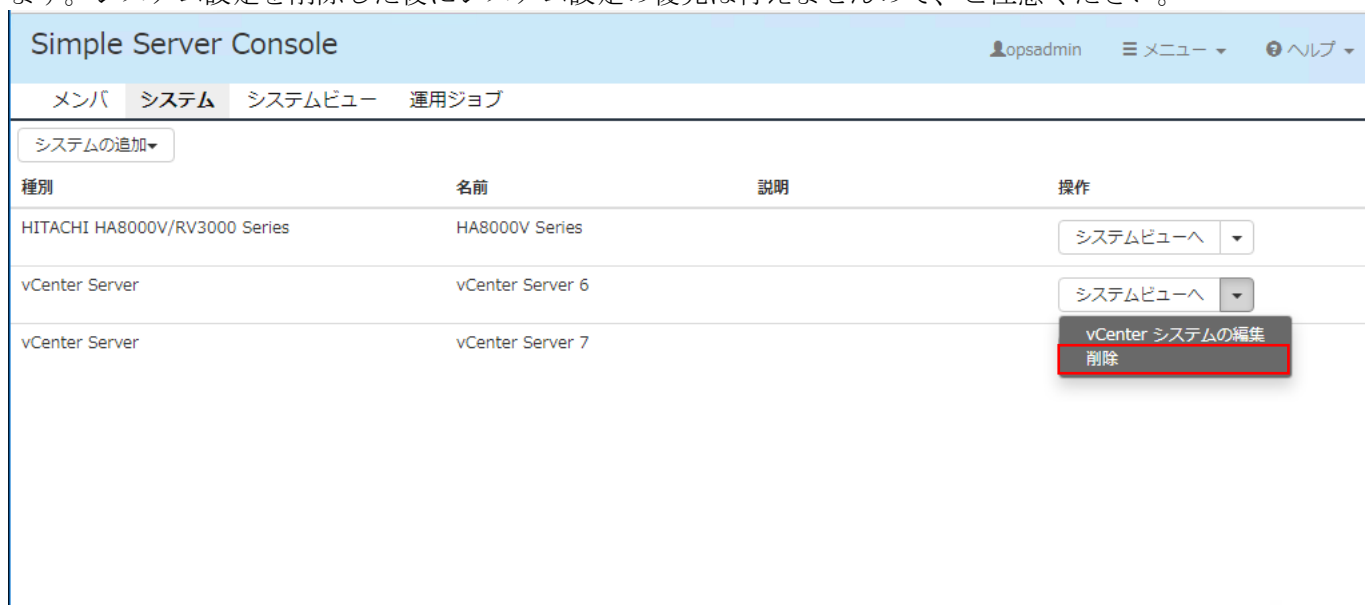
In the '操作' column for 'vCenter Server 7', a dropdown menu is open, showing 'vCenter システムの編集' (highlighted with a red box) and '削除'.

No.	項目	説明
1	名前	システム設定の表示名です。
2	説明	システム設定の説明です。
3	構成情報の自動取得間隔(分)	構成情報を取得する間隔(分)を 1~60 の範囲で変更できます。
4	接続情報を更新する	接続情報を更新する場合はチェックをオンにしてください。
5	ホスト名	vCenter のホスト名または IP アドレスです。 vCenter の HTTPS ポートをデフォルトの 443 から変更している場合は、「ホスト名または IP アドレス:ポート番号」の形式で入力してください。 [接続情報を更新する]がオンの場合のみ編集可能です。
6	ユーザ	vCenter に接続するためのユーザー名です。 [接続情報を更新する]がオンの場合のみ編集可能です。
7	パスワード	vCenter に接続するためのユーザーのパスワードです。 [接続情報を更新する]がオンの場合のみ編集可能です。

No.	項目	説明
8	データセンタ名	vCenter 内に構成されるデータセンタ名です。 [接続情報を更新する]がオンの場合のみ編集可能です。
9	JP1/A0 の URL	JP1/A0 を使用する場合、JP1/A0 の URL を入力します。
10	JP1/A0 のユーザ名	JP1/A0 を使用する場合、JP1/A0 のユーザー名を入力します。
11	JP1/A0 のパスワード	JP1/A0 を使用する場合、JP1/A0 のパスワードを入力します。

(3) vCenter システムの削除

システム画面の右側にあるドロップダウンリストから[削除]を選択すると、vCenter のシステム設定を削除できます。システム設定を削除した後にシステム設定の復元は行えませんので、ご注意ください。



● 注意事項

システム設定を削除すると、関連するジョブおよびタスクも連動して削除されます。そのため、スケジュール中のジョブ、タスクがエラーとなることがあります。

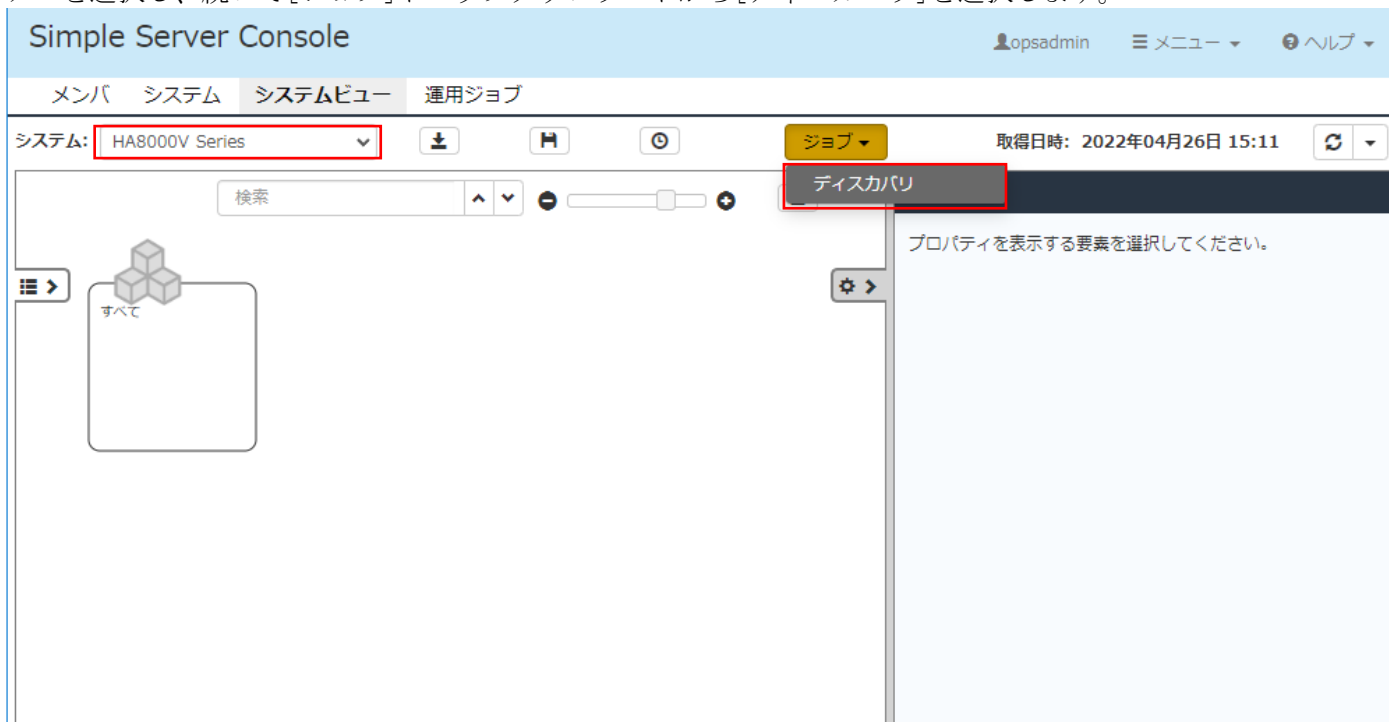
2. 4 ディスカバリ

ディスカバリの実行にはオーナー権限またはメンバ権限が必要です。

「3. 3. 1 HA8000V/RV3000へのジョブ実行」に示すジョブの動作中には、ディスカバリを実行しないでください。

(1) ディスカバリの実行

Simple Server Console 画面の上部にある[システム]ドロップダウンリストから、ディスカバリを実行するシステムを選択し、続いて[ジョブ]ドロップダウンリストから[ディスカバリ]を選択します。



[ディスカバリ]ダイアログが表示されるので、各項目を入力して、[実行]ボタンをクリックしてください。

ディスカバリ

ジョブ名: ディスカバリ_202007131605

	IPアドレス範囲	ポート番号	ユーザーID	パスワード	強制	
1	10.:.:.0	443	Administrator		☐	⊖ ⊕
2	10.:.:.:	443	Administrator		☐	⊖ ⊕

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意のジョブ名を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「ディスカバリ_yyyyMMddHHmm」です。
2	IP アドレス範囲※	探索する機器の iLO または RMC の IP アドレスを指定します。 IP アドレスは以下に示す指定が可能です。 ● IPv4, IPv6 ともに指定可能です。 ● 複数の IP アドレスや範囲指定が可能です。 複数の IP アドレスを指定する場合、","で区切って指定します。 IPv4 アドレスの範囲を指定することができます。この場合は第 4 オクテットの値を"-"でつなげて指定します。 (例) 192.168.1.11, 192.168.55.100-180
3	ポート番号※	iLO または RMC のポート番号を指定します。
4	ユーザーID※	iLO または RMC 通信時のユーザーID を指定します。 iLO の場合、ユーザーアカウントは「ログイン(Login)」「仮想電源およびリセット(Virtual Power and Reset)」権限が付与されている必要があります。 また、JP1/A0 連携機能を使用する場合は、「iLO 設定の構成(Configure iLO Settings)」権限も付与されている必要があります。 RMC の場合、ユーザーアカウントの Role は Administrator または Operator である必要があります。
5	強制	指定した「IP アドレス範囲」の範囲内で、すでに管理状態となっている IP アドレスを再探索する時にチェックします。

探索条件は[-]、[+]で追加と削除ができます。

※入力必須の項目です。

(2) ディスカバリの状況確認

ディスカバリの実行状況は、運用ジョブ画面で確認できます。運用ジョブ画面の[タスク一覧]で[タスク詳細]を表示します。

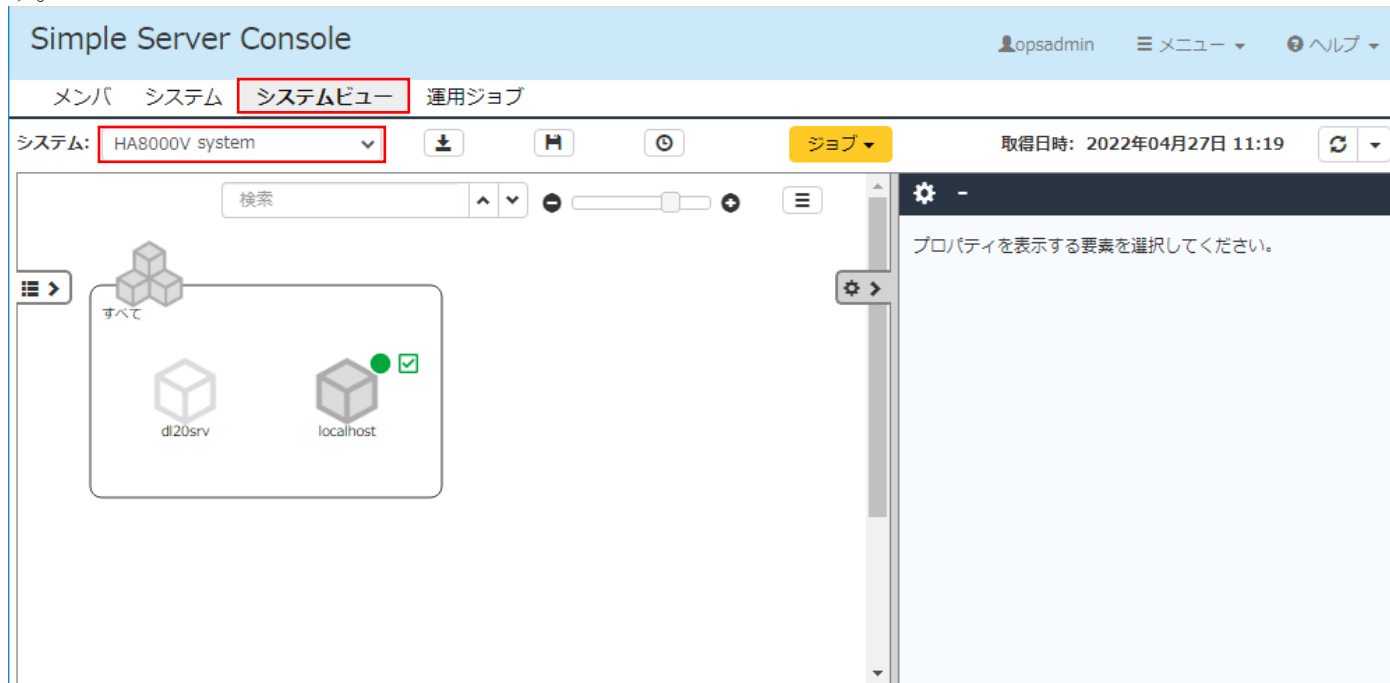
ジョブの確認方法は「3. 3. 3 ジョブの確認」を参照してください。

(3) ディスカバリの結果表示

システムビュー画面の[システム]ドロップダウンリストから、ディスカバリを実行したシステムを選択し、メニュー領域にある[構成取得]をクリックしてください。



“成功：構成情報の取得が完了しました”と表示されたら [画面更新] をクリックしてシステムビュー画面を再表示してください（ボタン配置については「3. 2. 1 HA8000V/RV3000の構成確認」を参照してください）。ディスクバリによって新たに発見された機器は、システムビュー画面に「非管理状態」の機器として表示されます。



(4) 管理対象の登録・削除

● 管理対象の登録

非管理状態のサーバー機器またはそれを含むグループを選択したうえで、[操作] ドロップダウンリストから[管理対象にする]を選択します。



[管理対象とするサーバの選択] ダイアログが表示されるので、チェックがついているサーバー機器を確認したう

えで、[OK]ボタンをクリックしてください。

ディスカバリの条件で指定した IP アドレスの範囲によっては、他のシステムで管理対象としている機器も発見されます。当該システムで管理する機器を選択して管理対象とします。



● 管理対象の削除

管理状態のサーバー機器またはそれを含むグループを選択したうえで、[操作]ドロップダウンリストから[管理対象から外す]を選択します。

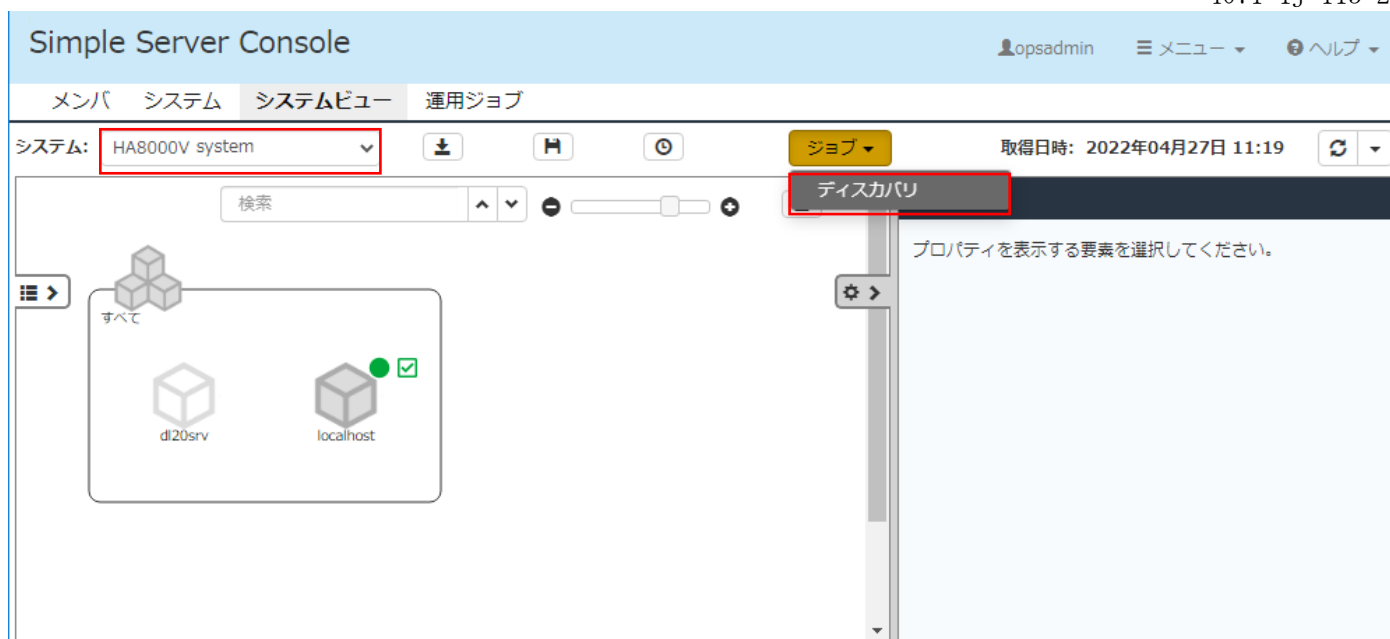


[管理対象から外すサーバの選択]ダイアログが表示されるので、チェックがついているサーバー機器を確認したうえで、[OK]ボタンをクリックしてください。



(5) ディスカバリの再実行

システムビュー画面の上部にある[システム]ドロップダウンリストから、ディスカバリを再実行するシステムを選択し、続いて[ジョブ]ドロップダウンリストから[ディスカバリ]を選択します。



前回実行時の探索条件が設定された状態で[ディスカバリ]ダイアログが表示されます。必要に応じて条件を変更して実行します。各項目の内容と実行後の確認方法は、初回ディスカバリの実行と同じです。



● ディスカバリ再実行時の注意事項

ディスカバリによって発見されている機器がある状態で再度ディスカバリを実行した場合、これらの機器に対する処理は、ディスカバリ条件の設定と機器の管理状態により異なります。

<既に発見されている機器をディスカバリ条件から削除して再実行した場合>

- ・ 当該機器に対する探索処理は実行されません。
- ・ 当該機器が管理状態になっていない場合はシステムビュー画面から削除されます。

<既に発見されている機器をディスカバリ条件に設定したまま再実行した場合>

- ・ 探索処理は「機器の管理状態」と「強制探索オプションの指定」に応じて実行されます。
 管理状態になっている機器： 強制探索オプションが「オン」の場合のみ再探索が行われます。
 非管理状態の機器： 強制探索オプションの指定によらず探索が行われます。
- ・ 再探索処理でエラーになった場合でも、発見済みの機器はシステムビュー画面から削除されません。

(6) アイコン一覧

【サーバー機器のリソースを示すアイコン】

アイコン	説明
	非管理状態の機器
	管理状態の機器

【サーバー機器のステータスを示すアイコン】

アイコン	説明
	- 機器への接続に失敗 - 機器への接続に成功したが、サポート対象外の機器

(7) 発見した機器の全削除

ディスカバリによって見つかった機器をすべて削除し初期状態に戻す場合は、すべての機器を非管理状態にしたのち、ディスカバリ条件を削除した状態で、再度ディスカバリを実行します。

管理対象機器の非管理状態にする手順は「(4) 管理対象の登録・削除」の管理対象の削除を参照してください。ディスカバリ条件を⊖ ボタンで全て削除します。

×

ディスカバリ

ジョブ名:

ディスカバリ_202007131605

	IPアドレス範囲	ポート番号	ユーザーID	パスワード	強制	
1	10.1.1.1/24	443	Administrator	*****	☐	⊖ ⊕
2	10.1.1.1/24	443	Administrator	*****	☐	⊖ ⊕

実行

キャンセル

条件が何もない状態でディスカバリを実行します。

ディスカバリ

ジョブ名:

ディスカバリ_202007211308

IPアドレス範囲

ポート番号

ユーザーID

パスワード

強制

実行

キャンセル

2. 5 設定のエクスポート・インポート

設定のエクスポート・インポートにはオーナー権限が必要です。

設定のエクスポートは、Simple Server Console のインストール環境をリプレースする場合のデータ移行、ならびに定期的なデータのバックアップを目的として使用します。

設定のインポートは、設定のエクスポート機能によって出力された拡張子が dat のファイルを Simple Server Console にインポートする機能です。Simple Server Console のインストール環境をリプレースする場合のデータ移行、ならびに万が一の障害時にあらかじめエクスポートしておいたデータからのリストアを目的として使用します。

(1) エクスポート

[メニュー] ドロップダウンリストから[設定のエクスポート]を選択すると、ファイルのダウンロードが開始されます。ダウンロードされたファイルの保存先やファイル名は Web ブラウザの設定によりますので、Web ブラウザのマニュアル等を確認してください。デフォルトのファイル名は settings.dat です。

The screenshot shows the Simple Server Console web interface. At the top, there's a header with 'Simple Server Console', a user profile 'opsadmin', and navigation links for 'メニュー' (Menu) and 'ヘルプ' (Help). Below the header is a tabbed interface with 'メンバ' (Members), 'システム' (Systems), 'システムビュー' (System View), and '運用ジョブ' (Operations Jobs). The 'システム' tab is active, showing a table of systems. A dropdown menu is open from the 'メニュー' link, with '設定のエクスポート' (Export Settings) highlighted. Below the table, a file named 'settings.dat' is shown with a download icon. A 'すべて表示' (Show All) button is also visible.

種別	名前	説明
HITACHI HA8000V/RV3000 Series	HA8000V Series	
vCenter Server	vCenter Server 6	システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 7	システムビューへ

settings.dat

すべて表示

(2) インポート

[メニュー] ドロップダウンリストから[設定のインポート]を選択します。

This screenshot is similar to the previous one, showing the Simple Server Console interface. The dropdown menu from the 'メニュー' link is open, and '設定のインポート' (Import Settings) is highlighted. The rest of the interface, including the system table and the 'settings.dat' file, remains the same.

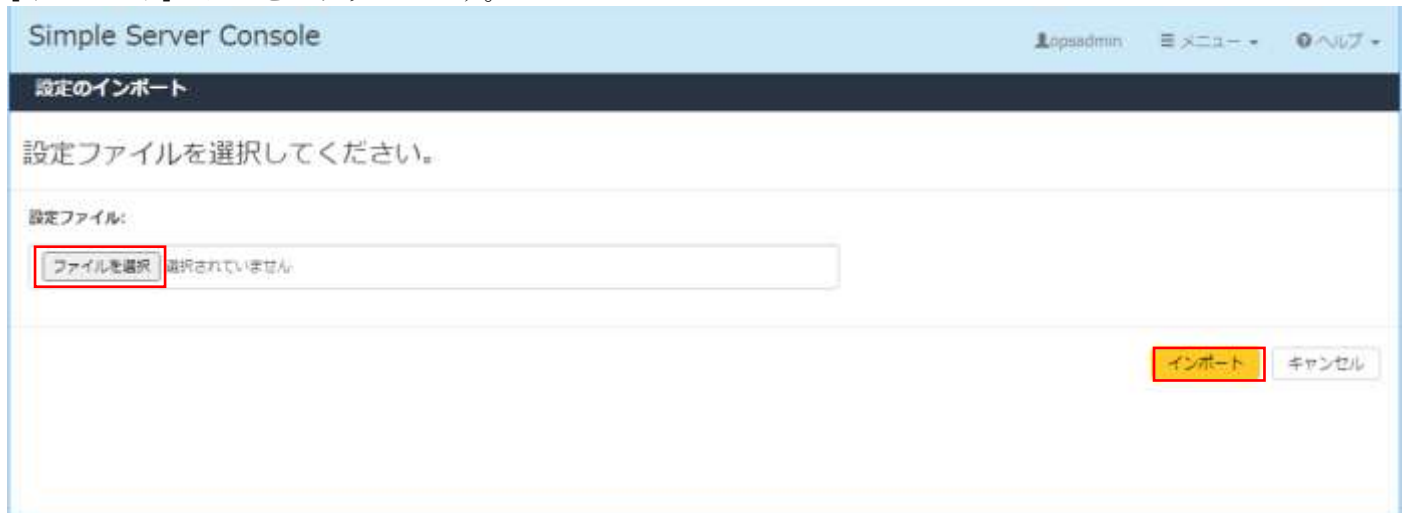
種別	名前	説明
HITACHI HA8000V/RV3000 Series	HA8000V Series	
vCenter Server	vCenter Server 6	システムビューへ
vCenter Server	vCenter Server 7	システムビューへ

settings.dat

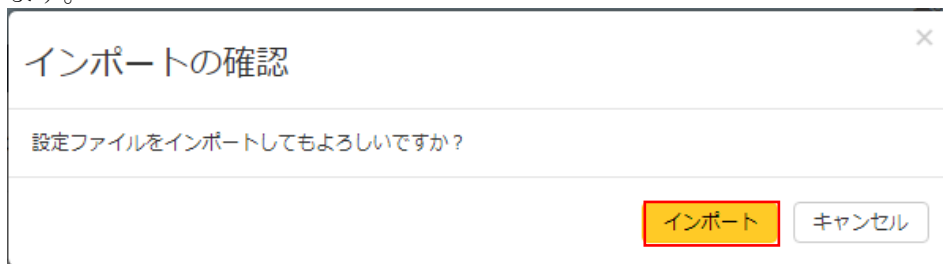
すべて表示

[設定のインポート]画面が表示されるので、[ファイルを選択]ボタンからインポートするファイルを指定して、

[インポート]ボタンをクリックします。



[インポートの確認]ダイアログが表示されるので、[インポート]ボタンをクリックするとインポートが実行されます。



● インポートの注意事項

- ・ インポートの処理は、Simple Server Console に登録されている設定情報は削除せずに、インポート対象ファイルのデータを追加で登録します。
データの重複等の不整合が発生する可能性があるため、必ず初期状態の環境にインポートしてください。
- ・ インポートが完了すると、強制的にログアウトしてログイン画面に遷移します。

3. 運用者の操作(共通機能)

本章では、全てのユーザーが利用できる機能について説明します。各種サービス利用者向けの機能については、「4. 運用者の操作(各種サービス利用者向け機能)」を参照ください。

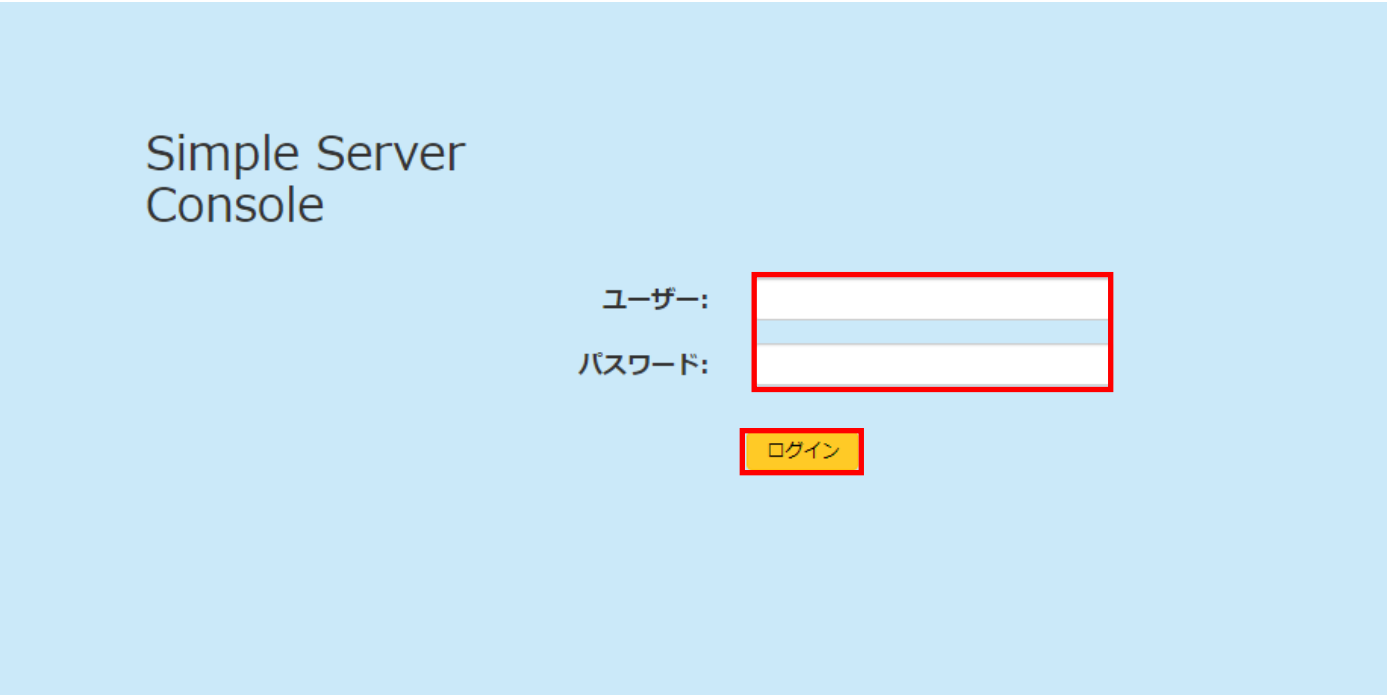
3. 1 ログイン・ログアウト

(1)ログイン

Simple Server Console にログインするには下記の URL にアクセスしてください。利用できる Web ブラウザは、「1. 3 事前準備」を参照してください。

URL： http://Simple Server Console のホスト名(または IP アドレス)/	(HTTP 接続の場合)
URL： https://Simple Server Console のホスト名(または IP アドレス)/	(HTTPS 接続の場合)

URL にアクセスすると次のログインフォーム画面が表示されます。ユーザーとパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてログインしてください。



ログインすると、ユーザーの権限に応じてシステム画面またはシステムビュー画面が表示されます。

No.	ユーザーの権限	表示画面
1	オーナー権限	[システム]画面
2	メンバ権限	[システム]画面
3	閲覧権限	[システムビュー]画面



● 初めてログインするとき

メンバが初めてログインするときは、次のユーザーとパスワードを入力してください。

ユーザー：[メンバの追加]ダイアログで入力したユーザーID
パスワード：P@ssw0rd

[メンバの追加]ダイアログで入力したユーザーID とは、管理者が Simple Server Console にユーザーを登録したときの任意の ID です。不明な場合は管理者に問い合わせてください。

[メンバの追加]ダイアログについては「2. 2 メンバの追加・編集・削除」を参照してください。

初回ログインすると、必ずパスワードの変更画面に遷移します。任意の新しいパスワードを入力して[保存]ボタンをクリックしてください。パスワードの有効期間は 180 日間です。

● パスワードを変更するとき

パスワードを変更するときは、画面右上の[メニュー] - [パスワードの変更]をクリックするとパスワードの変更画面が表示されます。任意の新しいパスワードを入力して[保存]ボタンをクリックしてください。パスワードの有効期間は 180 日間です。



● パスワードの有効期限が切れてしまったとき

ログインフォーム画面で入力したパスワードの有効期限を経過していてもログイン可能です。ただし、ログイン後にパスワードの変更画面に必ず遷移します。任意の新しいパスワードを入力して[保存]ボタンをクリックしてください。パスワードの有効期間は 180 日間です。

● ログインに失敗するとき（パスワードエラー）、パスワードを忘れてしまったとき

ログインに失敗するときやパスワードを忘れてしまったときは管理者に連絡してください。一旦、メンバを削除した後、再度メンバの追加をする必要があります。メンバの削除・追加にはオーナー権限が必要です。

(2) ログアウト

Simple Server Console からログアウトするには、画面右上の[メニュー] - [ログアウト]をクリックしてください。ログアウトするとログインフォーム画面に遷移します。



3. 2 構成の確認

システムビュー画面では、論理構成および物理構成をわかりやすい構成図で確認できます。

3. 2. 1 HA8000V/RV3000 の構成確認

システムビュー画面で表示される内容は、次のとおりです。

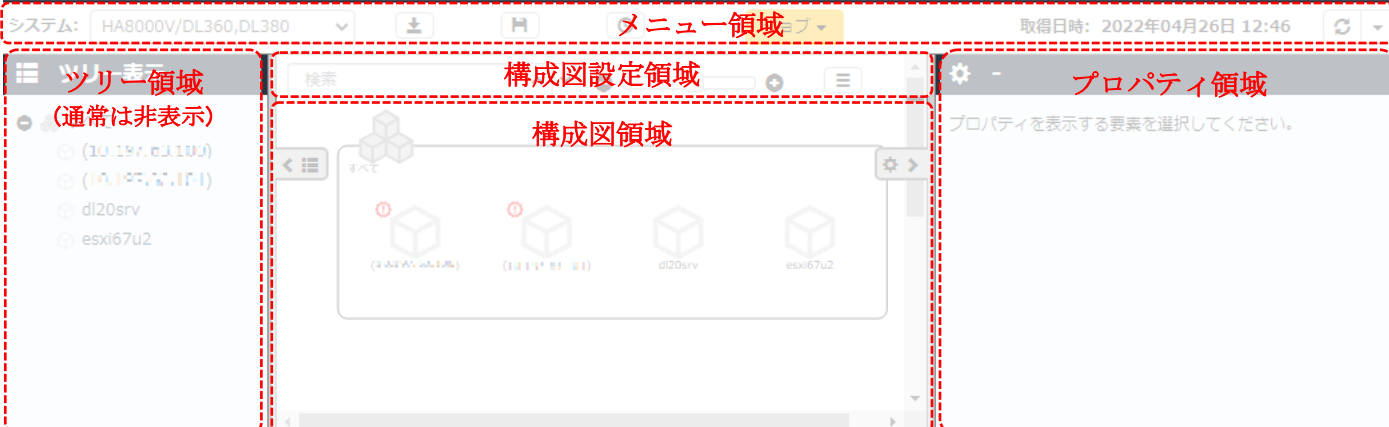
No.	項目	説明
1	基本表示	アイコンを使用して物理構成を可視化します。
2	詳細表示	アイコン単位に詳細なプロパティを表示します。
3	表示切り替え	ステータス表示、グループ化表示などのオプションを表示します。
4	ツリー表示	物理構成をツリー形式で表示します。

(1) 基本表示

画面上部の[システムビュー]タブをクリックすると、システムビュー画面が表示されます。左上の[システム]ドロップダウンボックスから HA8000V/RV3000 の構成を選択すると、構成図が表示されます。



システムビュー画面は次の 5 つの領域で構成しています。



各領域の説明を次の表に示します。

No.	領域	説明
1	メニュー領域	Simple Server Console に対するさまざまな操作メニューを表示する領域です。 ● システム システムビュー画面で表示する構成を選択して切り替えます。 ● エクスポート 表示している構成の構成図と構成情報をエクスポートできます。詳細は「3. 4 構成情報のエクスポート」を参照してください。 ● 構成履歴保存 表示している構成の構成情報を保存できます。詳細は「3. 5 構成履歴の保存」を参照してください。 ● 構成履歴一覧 「構成履歴保存」で保存した構成情報を参照できます。詳細は「3. 5 構成履歴の保存」を参照してください。 ● ジョブ 機器に対してジョブを実行できます。詳細は「3. 3. 1 HA8000V/RV3000 へのジョブ実行」を参照してください。 ● 取得日時 構成情報を取得した日時を表示します。 ● 画面更新 システムビュー画面を再表示します。 ● 構成取得 現在の構成情報を取得します。
2	ツリー領域	構成をツリー表示する領域です。開閉可能です。
3	構成図設定領域	構成図を操作するメニューを表示する領域です。 ● 検索

No.	領域	説明
		入力した文字列に部分一致する各リソースの名前、機器の IP アドレス、iLO/RMC バージョンなどのプロパティ値を逐次検索することができます。 ● 拡大縮小表示 スライダーを左右に移動させると、構成図が拡大または縮小表示されます。 ● 表示切り替え 構成図に重ねて表示する項目を切り替えることができます。詳細は「(3) 表示切り替え」を参照してください。
4	構成図領域	構成図を表示する領域です。
5	プロパティ領域	構成図で選択されている要素の詳細情報を表示する領域です。開閉可能です。また、プロパティ領域にある次のボタンから他の画面に遷移することができます。 ● 操作※1※2 構成図領域で選択した機器またはグループに対し、管理対象とする・しないを指定します。また、温度情報の表示機能に対応した機器、またはそれを含むグループに対し、温度情報を表示する・しないの指定と、温度情報のエクスポートができます。さらに、グループを選択している時、グループ化の追加・編集・削除が指定できます。グループ化を設定すると、設定した項目で機器をグループ化した構成図を表示できるようになります。グループ化設定については「(5) グループ化設定の追加・編集・削除」を参照してください。 ● ESX 仮想サーバー管理の[システムビュー]画面に遷移し、該当機器の ESX ホストを選択した状態で表示します。 ● iLO/RMC※1 別ウィンドウで iLO/RMC 管理サイトのログイン画面を表示します ※1 閲覧権限の場合は表示されません。 ※2 [構成履歴モード] の場合は表示されません。

(2) 詳細表示

構成図領域の各アイコンをクリックするとアイコンの背景色が水色になり、詳細情報が右側のプロパティ領域に表示されます。

Simple Server Console

opsadmin メニュー ヘルプ

メンバ システム システムビュー 運用ジョブ

システム: HA8000V/DL360,DL380 ジョブ 取得日時: 2023年04月14日 13:21

ツリー表示

- すべて
 - DL380Gen10-ESXi703u3
 - vm8host**
 -

すべて

DL380Gen10-ESXi703u3 vm8host

HA8000V iLO/RMC 操作

■ 全般

サーバ名: vm8host
 ベンダ: HITACHI
 モデル: HA8000V/DL360 Gen10
 SKU: 113111 111
 シリアル番号: 113111 111
 UUID: 113111 111 111 111
 113111 111

■ iLO/RMC

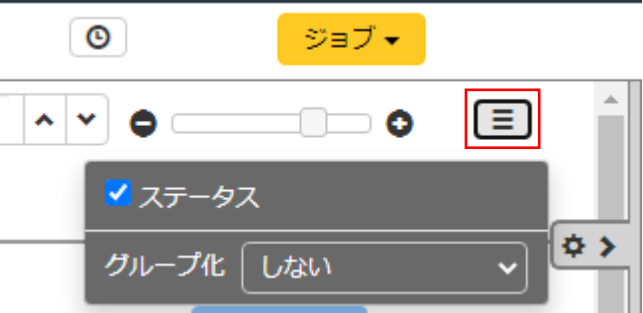
ホスト名: 113111 111
 IPアドレス: 113111 111

■ プロセッサ

同一种別のリソース(アイコン)は、Ctrl キーを押しながら選択することで同時に複数選択できますが、プロパティ領域には最初を選択したアイコンの詳細情報のみが表示されます。

(3) 表示切り替え

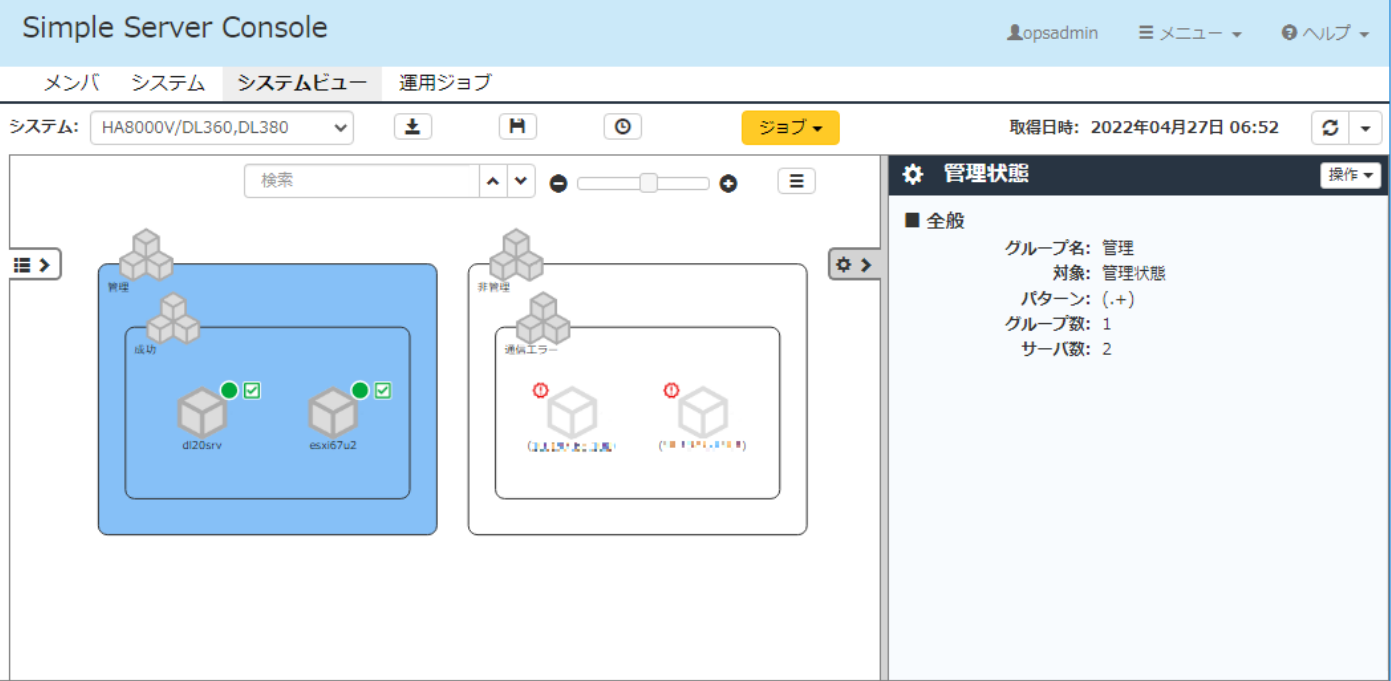
構成図領域の右上にある[表示切り替え]メニューにより、構成図に重ねて表示する項目を切り替えることができます。



[表示切り替え]メニューのオプションを次の表に示します。

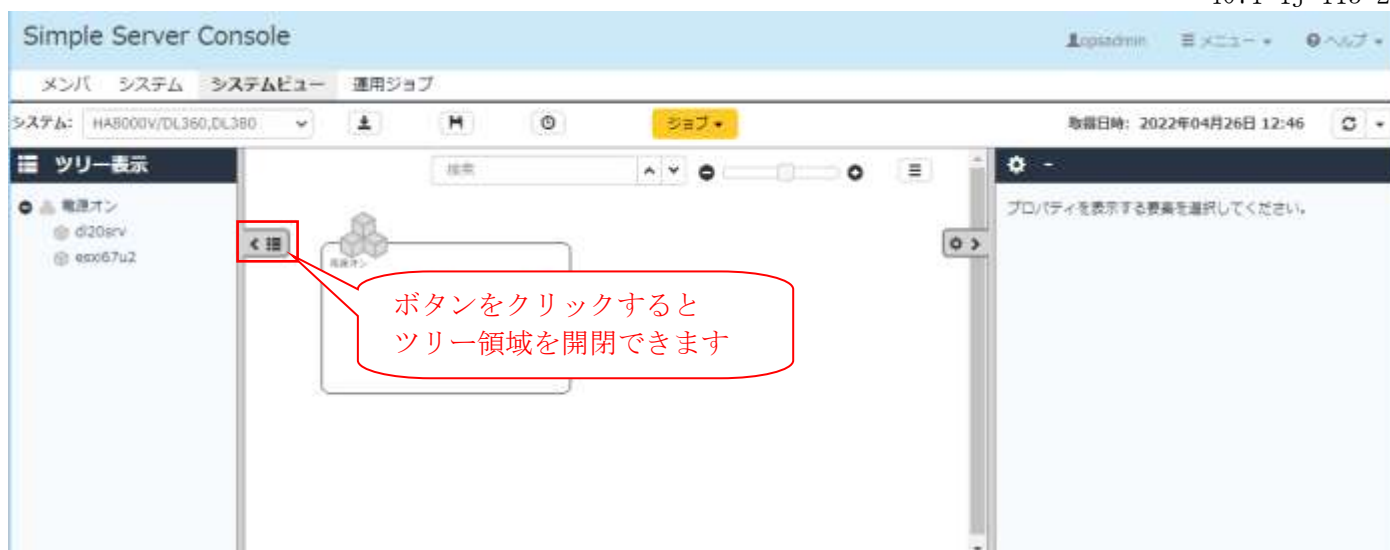
No.	オプション	説明
1	ステータス	機器の電源状態、システムヘルス、および温度状態の表示/非表示を切り替えます。
2	グループ化	グループ化設定した項目をプルダウンから選択すると、その項目でグループ化された構成図が表示されます。グループ化設定については「(5) グループ化設定の追加・編集・削除」を参照してください。

以下は、グループ化された構成図の例です。



(4) ツリー表示

各アイコンを階層構造で表示し、大量の機器を効率的に管理、検索できます。ツリー領域が閉じている場合は、構成図領域の左側のボタンをクリックしてください。



ツリー領域と構成図領域に表示される同一の管理対象のアイコンは、片方を選択するともう一方でも選択状態になります。例えば、ツリー領域の各アイコンを選択すると、構成図領域の該当するアイコンも自動的に選択状態になり画面内に表示されます。構成図領域のアイコンを選択した場合も同様にツリー領域の該当するアイコンが選択状態になります。

(5) グループ化設定の追加・編集・削除

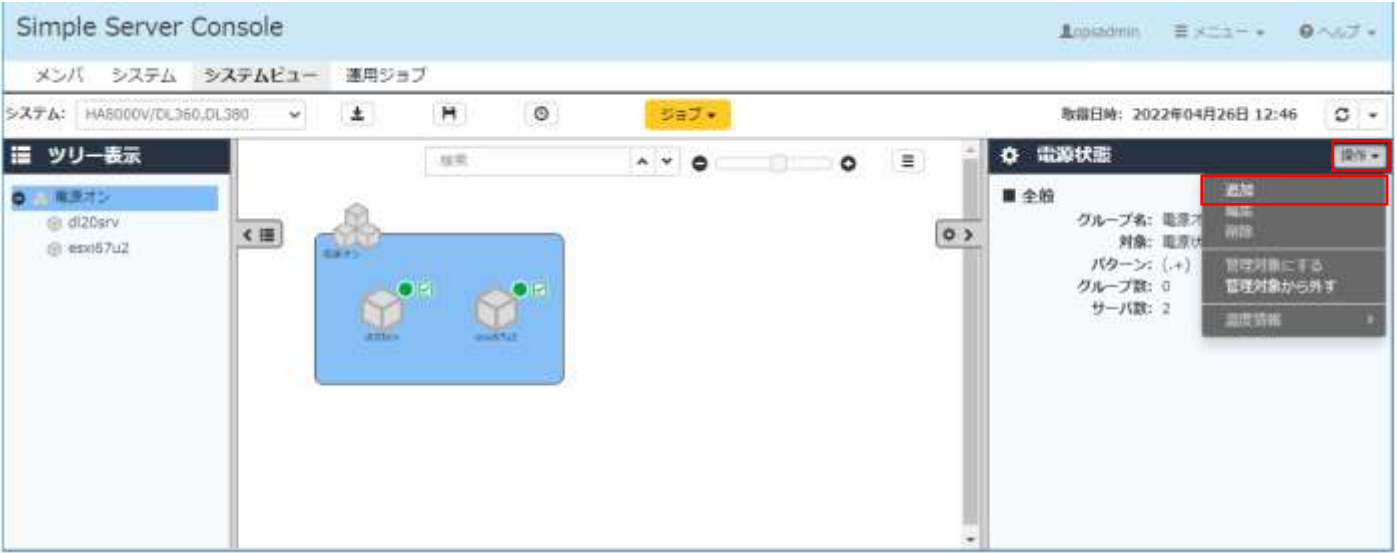
グループ化設定をおこなうと、設定した項目でグルーピングした構成図を表示させることができます。

次の表に示すビルトイングループに加え、任意のグループ化設定を使用することが出来ます。

No.	名称	説明
1	電源状態	電源オン状態の機器と電源オフ状態の機器にグループ分けする。
2	管理状態	管理状態と非管理状態の機器にグループ分けし、さらにそれぞれのグループをディスカバリまたは構成情報の取得結果ごとにグループ化する。
3	しない	グループ化せず、「すべて」グループに全機器を表示する。

● グループ化設定の追加

「グループ」アイコンを選択して、プロパティ領域の右上に表示される[操作]から[追加]を選択すると[グループ化設定]ダイアログが表示されます。各項目を入力して[保存]ボタンをクリックしてください。



グループ化設定

名前:

対象	パターン	グループ名	その他の除外
1階層目			☐
2階層目			☐
3階層目			☐

保存

キャンセル

各入力項目の説明を次の表に示します。

No.	項目		説明
1	名前※		任意の名称を入力します。ここに設定した名称が[表示切り替え]メニューの[グループ化]に表示されます。[表示切り替え]メニューについては「(3)表示切り替え」を参照してください。
2	1 階層目※	対象※	グループ化する対象をドロップダウンリストから選択します。

No.	項目		説明						
3		パターン※	グループ化するパターンを正規表現で入力します。JavaScript の正規表現パターンに従い、キャプチャを 1 つ以上含むパターンを入力してください。ここに設定したパターンと一致したプロパティ値の文字列で機器がグループ化されます。パターンと一致しない機器は「その他」グループに配置されます。 【パターンの入力例】 <table><tr><td>(.+)</td><td>プロパティ値の全体の文字列でグループ化する場合</td></tr><tr><td>. *¥. (.+) \$</td><td>ドットで区切られた文字列の後方文字列でグループ化する場合</td></tr><tr><td>^(. [^¥/¥s]+)</td><td>HA8000V/RV3000 シリーズでグループ化する場合 (この場合、対象で「モデル」を選択してください)</td></tr></table>	(.+)	プロパティ値の全体の文字列でグループ化する場合	. *¥. (.+) \$	ドットで区切られた文字列の後方文字列でグループ化する場合	^(. [^¥/¥s]+)	HA8000V/RV3000 シリーズでグループ化する場合 (この場合、対象で「モデル」を選択してください)
(.+)		プロパティ値の全体の文字列でグループ化する場合							
. *¥. (.+) \$		ドットで区切られた文字列の後方文字列でグループ化する場合							
^(. [^¥/¥s]+)		HA8000V/RV3000 シリーズでグループ化する場合 (この場合、対象で「モデル」を選択してください)							
4	グループ名※	任意の名称を入力します。ここに設定した名称が「グループ」アイコンのラベルとして表示されます。パターンでキャプチャした文字列をグループ名に含める場合は「\$1」を入力してください。 【グループ名の入力例】 <table><tr><td>\$1</td><td>パターンでキャプチャした文字列をグループ名とする場合</td></tr><tr><td>\$1 シリーズ</td><td>パターンでキャプチャした文字列をグループ名の一部として使用する場合</td></tr></table>	\$1	パターンでキャプチャした文字列をグループ名とする場合	\$1 シリーズ	パターンでキャプチャした文字列をグループ名の一部として使用する場合			
\$1	パターンでキャプチャした文字列をグループ名とする場合								
\$1 シリーズ	パターンでキャプチャした文字列をグループ名の一部として使用する場合								
5	その他の除外	指定したパターンに一致しない機器が配置される「その他」グループを画面表示しない場合にチェックします。							
6	2 階層目	対象	1 階層目と同じです。						
7		パターン							
8		グループ名							
9		その他の除外							
10	3 階層目	対象	1 階層目と同じです。						
11		パターン							
12		グループ名							
13		その他の除外							

※入力必須の項目です。

以下は機器の設置場所によってグループ化表示するときの設定例です。

グループ化設定

名前:

設置場所

	対象	パターン	グループ名	その他の除外
1階層目	サーバ名	^.*¥.(+)	サイト-\$	☐
2階層目	サーバ名	^B(..).*S	建屋-\$1	☐
3階層目	サーバ名	^B..R(..).	ラック位置	☐

保存

キャンセル

● グループ化設定の編集

グループ化表示をした構成図で「グループ」アイコンを選択して、プロパティ領域の右上に表示される[操作]から[編集]を選択すると、設定済みの[グループ化設定]ダイアログが表示され、編集できます。各項目の説明は「グループ化設定の追加」を参照してください。

● グループ化設定の削除

グループ化表示をした構成図で「グループ」アイコンを選択して、プロパティ領域の右上に表示される[操作]から[削除]を選択すると、[グループ化設定の削除]ダイアログが表示され、グループ化設定を削除できます。グループ化設定を削除した後にグループ化設定の復元は行えませんので、ご注意ください。

(6) 温度情報の表示・非表示

温度情報の表示機能に対応したサーバー機器の場合、温度情報の表示有無を切り替えることができます。環境温度を 28℃以下にする必要がある機器は、温度情報を表示するに設定してください。それ以外の機器は、温度情報を表示しないに設定してください。環境温度を 28℃以下にする必要がある機器については装置のマニュアルを確認してください。温度情報を表示する設定とした場合、プロパティ領域に入気温度と温度状態を示す項目が追加されます。また、構成図領域の機器に温度状態を示すアイコンが追加されます。

● 温度情報を表示する

温度情報の表示機能に対応したサーバー機器またはそれを含むグループを選択したうえで、[操作]ドロップダウンリストから[温度情報]-[表示する]を選択します。



[温度情報を表示するサーバの選択]ダイアログが表示されるので、チェックがついているサーバー機器を確認したうえで、[OK]ボタンをクリックしてください。



● 温度情報を非表示する

温度情報を表示する設定としたサーバー機器またはそれを含むグループを選択したうえで、[操作]ドロップダウンリストから[温度情報]-[表示しない]を選択します。



[温度情報を表示しないサーバの選択]ダイアログが表示されるので、チェックがついているサーバー機器を確認したうえで、[OK]ボタンをクリックしてください。

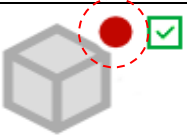


(7) アイコン一覧

【リソースを示すアイコンとラベル】

アイコンとラベル	上段：対応するリソース、下段：ラベルの説明
 サイト - tokyo	グループ
	グループ名
 B01R01-001.toky o	機器
	サーバー名（管理状態）
 SRV1	機器
	サーバー名（非管理状態）

【電源の状態を示すアイコン】

アイコン	説明
	機器の電源がオン
	機器の電源がオフ

【システムの状態を示すアイコン】

アイコン	説明
	HA8000V/RV3000 の状態が正常※ ¹
	HA8000V/RV3000 の状態が警告※ ¹

アイコン	説明
	HA8000V/RV3000 の状態が異常※ ¹
	・機器への接続に失敗※² ・機器への接続に成功したが、サポート対象外の機器※²

※¹ HA8000V/RV3000 から取得したシステムヘルスの情報を表示します。

※² ディスカバリ/構成取得の結果を示します。

【温度の状態を示すアイコン】※¹

アイコン	説明
	温度の状態が正常
	温度の状態が警告
	温度の状態がエラー
	温度の状態が不明

※¹ 温度情報を表示する設定とした機器のみ表示されます。

(8) HA8000V/RV3000 の構成確認に関する注意事項

- ・ 管理台数が多い場合、構成が画面に表示されるまで時間がかかることがあります。
- ・ タスクの実行中に構成情報の取得を行った場合、情報の一部が表示されないことがあります。この場合は、最新の構成を更新した後で画面を更新してください。
- ・ 複数のユーザーおよび Web ブラウザから同一の機器を対象にした操作を同時に行わないでください。操作が競合すると予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ 拡大縮小や表示切り替えメニューの設定状態、プロパティ領域やツリー領域の開閉状態は Web ブラウザ単位に保存されるため、本システムを利用する PC および Web ブラウザを変更すると引き継がれません。
- ・ 電源操作ジョブが完了しても、Simple Server Console は自動的に更新されません。ジョブの完了後、最新の構成に更新した後で画面を更新してください。
- ・ HA8000V/RV3000 から取得する情報のうち、次に示す項目（対象）のプロパティは日本語で表示されますが、グループ化のパターンで値を評価する場合は[実際の値]を使用してください。例えば、システムヘルスが異

常または警告の機器をグループ化する場合は、パターンに「(Error|Warning)」と入力してください。

項目（対象）	プロパティ	
	表示される値	実際の値
電源状態	オン	On
	オフ	Off
システムヘルス	正常	Normal
	警告	Warning
	異常	Error
LID	オン	On
	オフ	Off

- ・ サーバー機器の温度情報を表示する設定にして温度情報を監視する場合、システム設定の「構成情報の自動取得間隔(分)」を15分以下に設定してください。システム設定の編集については、「2. 3. 1 (2) HA8000V/RV3000のシステム設定編集」を参照してください。

3. 2. 2 vCenter の構成確認

システムビュー画面で表示される内容は、次のとおりです。

No.	項目	説明
1	基本表示	アイコンを使用して、論理構成を可視化します。
2	詳細表示	アイコン単位に詳細なプロパティを表示します。
3	表示切り替え	電源ステータスやリソースプールなどのオプションを表示します。
4	ツリー表示	論理構成をツリー形式で表示します。

(1) 基本表示

画面上部の[システムビュー]タブをクリックすると、システムビュー画面が表示されます。左上の[システム]ドロップダウンボックスから vCenter の構成を選択すると、構成図が表示されます。



システムビュー画面は次の 5 つの領域で構成しています。



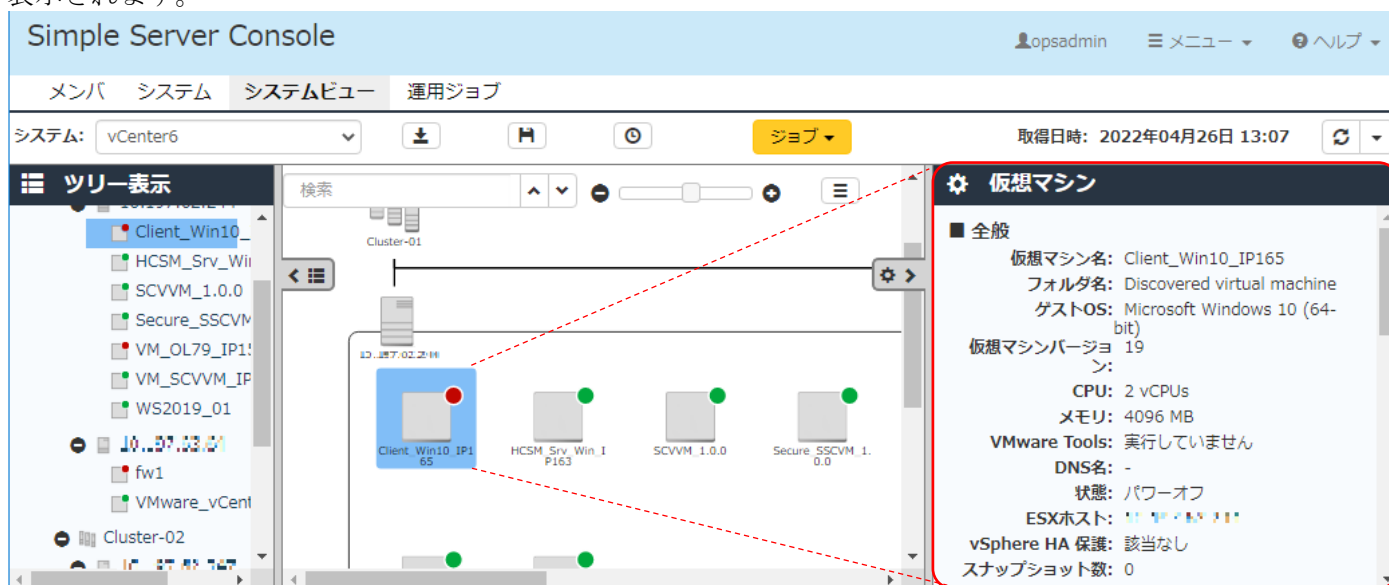
各領域の説明を次の表に示します。

No.	領域	説明
1	メニュー領域	Simple Server Console に対するさまざまな操作メニューを表示する領域です。 ● システム システムビュー画面で表示する構成を選択して切り替えます。 ● エクスポート 表示している構成の構成図と構成情報をエクスポートできます。詳細は「3. 4 構成情報のエクスポート」を参照してください。 ● 構成履歴保存 表示している構成の構成情報を保存できます。詳細は「3. 5 構成履歴の保存」を参照してください。 ● 構成履歴一覧 「構成履歴保存」で保存した構成情報を参照できます。詳細は「3. 5 構成履歴の保存」を参照してください。 ● ジョブ 仮想マシンに対してジョブを実行できます。詳細は「3. 3. 2 vCenter へのジョブ実行」を参照してください。 ● 取得日時 構成情報を取得した日時を表示します。 ● 画面更新 システムビュー画面を再表示します。 ● 構成取得 現在の構成情報を取得します。
2	ツリー領域	構成をツリー表示する領域です。開閉可能です。
3	構成図設定領域	構成図を操作するメニューを表示する領域です。 ● 検索 入力した文字列に部分一致する各リソースの名前、仮想マシンの IP アドレス、DNS 名を逐次検索することができます。 ● 拡大縮小表示 スライダーを左右に移動させると、構成図が拡大または縮小表示されます。 ● 表示切り替え 構成図に重ねて表示する項目を切り替えることができます。詳細は「(3) 表示切り替え」を参照してください。
4	構成図領域	構成図を表示する領域です。
5	プロパティ領域	構成図で選択されている要素の詳細情報を表示する領域です。開閉可能です。また、プロパティ領域にある次のボタンから他の画面に遷移することが

No.	領域	説明
		できます。 ● vSphere※ vSphere Web Client 画面を別ウィンドウで表示します。このボタンは、「vCenter」アイコンを選択した場合のみ表示されます。 ● サーバー 選択した ESX ホストが動作している機器のシステムビューに遷移します。このボタンは、「ESX ホスト」アイコンを選択した場合のみ表示されます。ただし、同じ MAC アドレスを持つ機器が見つからない場合は表示されません。 ● ESX※ ESX の Web クライアント画面を別ウィンドウで表示します。このボタンは、「ESX ホスト」アイコンを選択した場合のみ表示されます。 ※ 閲覧権限の場合は表示されません。

(2) 詳細表示

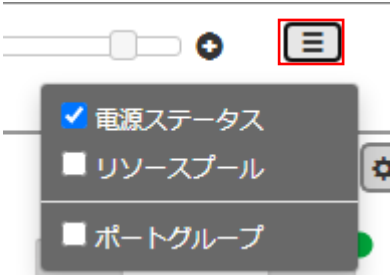
構成図領域の各アイコンをクリックするとアイコンの背景色が水色になり、詳細情報が右側のプロパティ領域に表示されます。



同一種別のリソース(アイコン)は、Ctrl キーを押しながら選択することで同時に複数選択できますが、プロパティ領域には最初に選択したアイコンの詳細情報のみが表示されます。

(3) 表示切り替え

構成図領域の右上にある[表示切り替え]メニューにより、構成図に重ねて表示する項目を切り替えることができます。



電源のステータス、リソースプールなどの追加情報を表示して、さらに細かい情報を確認できます。次の図はポートグループをオンにした例です。表示されたポートグループを選択すると、同時に同じポートグループもハイライト表示されます。特定の仮想マシンのすべてに同じポートグループが割り当たっていることを確認できます。



[表示切り替え]メニューのオプションを次の表に示します。

No.	オプション	説明
1	電源ステータス	仮想マシンの電源状態の表示/非表示を切り替えます。
2	リソースプール	仮想マシンに割り当てられたリソースプールを表示します。
3	ポートグループ	仮想マシンに割り当てられたポートグループを表示します。複数のポートグループが割り当てられている場合は個々に表示します。同一のポートグループが割り当てられているかを確認するために使用します。

(4) ツリー表示

各アイコンを階層構造で表示し、大量の仮想マシンを効率的に管理、検索できます。ツリー領域が閉じている場合は、構成図領域の左側のボタンをクリックしてください。ツリー領域では、仮想マシンの電源状態が常に表示されています。



ツリー領域と構成図領域に表示される同一の管理対象のアイコンは、片方を選択するともう一方でも選択状態になります。例えば、ツリー領域の各アイコンを選択すると、構成図領域の該当するアイコンも自動的に選択状態になり画面内に表示されます。構成図領域のアイコンを選択した場合も同様にツリー領域の該当するアイコンが選択状態になります。

(5) アイコン一覧

【リソースを示すアイコン】

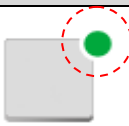
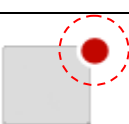
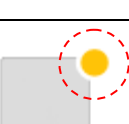
アイコン	対応するリソース
	vCenter
	データセンタ
	クラスタ
	ESX ホスト
	仮想マシン
	テンプレート
	データストア

【リソースのラベル】

ラベル	説明
	リソースプール名

ラベル	説明
	分散仮想スイッチのポートグループ名
	標準仮想スイッチのポートグループ名

【リソースの状態を示すアイコン】

アイコン	説明
	仮想マシンの電源がオン
	仮想マシンの電源がオフ
	仮想マシンの電源がサスペンド

(6) vCenter の構成確認に関する注意事項

- ・ 管理台数が多い場合、構成が画面に表示されるまで時間がかかることがあります。
- ・ 仮想マシン作成などのタスクの実行中に構成情報の取得を行った場合、情報の一部が表示されないことがあります。この場合は、最新の構成を更新した後で画面を更新してください。
- ・ Simple Server Console で仮想マシンを 16 台以上同時に選択するとジョブボタンは非活性表示となります。
- ・ 複数のユーザーおよび Web ブラウザから同一の仮想マシンを対象にした操作を同時に行わないでください。操作が競合すると予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ 拡大縮小や表示切り替えメニューの設定状態、プロパティ領域やツリー領域の開閉状態は Web ブラウザ単位に保存されるため、本システムを利用する PC および Web ブラウザを変更すると引き継がれません。
- ・ 電源操作ジョブが完了しても、Simple Server Console は自動的に更新されません。ジョブの完了後、最新の構成に更新した後で画面を更新してください。
- ・ 仮想マシンに割り当てられたポートグループが削除されている場合でも、そのポートグループのラベルは表示されます。ポートグループ名以外の詳細情報は表示されません。

(7) ESXi サーバーを保守交換したときの処置

保守交換などでネットワークアダプターを入れ替えても、ESXi サーバーのネットワークアダプターの情報が最新に更新されないため、以下の問題が発生します。

- － vCenter のシステムビュープロパティ領域のネットワークの情報 (MAC アドレス) に最新の情報が表示されません。

- ESX ボタン、および、サーバーボタンが正しく動作しない場合があります。
- JP1/A0 連携機能の vSAN ローリングアップデートが正しく動作しない場合があります。

次の手順で、ESXi サーバーおよび Simple Server Console の情報を更新してください。ESXi サーバーの操作の詳細については、ESXi サーバーの取扱説明書を参照してください。

- (1) ネットワークアダプターを交換した ESXi サーバーの ESXi Shell または SSH から次のコマンドを実行してください。

```
esxcfg-advcfg -s 1 /Net/FollowHardwareMac
```

- (2) (1) の ESXi サーバーを再起動してください。

注：ESXi サーバーの取扱説明書にしたがって、再起動に必要な作業を行ってください。以下のような作業が必要になります。

- 仮想マシンのパワーオフや vMotion を使用しての移行
- メンテナンスモードへの切り替え

- (3) システム設定の「構成情報の自動取得間隔(分)」(2.3.1 (2)HA8000V/RV3000のシステム設定編集 参照)の時間だけお待ちください。

- (4) Simple Server Console にログインしている場合は、画面を更新してください。

3. 3 ジョブの実行・確認

ジョブとは、1つの対象リソースとリソースを操作するパラメータおよび実行契機を定義したものです。ジョブを登録すると対応するタスクを生成します。定期実行ジョブの場合は、指定した周期に合わせて複数のタスクを生成します。実行契機になるとタスクは定義されたリソースに対して操作を開始します。

3. 3. 1 HA8000V/RV3000 へのジョブ実行

ジョブを登録、実行してシステムビュー画面の機器を操作できます。登録可能なジョブは次のとおりです。

No.	ジョブの種類	種別	説明
1	電源オン	電源操作	機器の電源をオンにします。ジョブ実行後の電源の状態はシステムビューの構成図に表示される実行対象のアイコンで確認します。
2	リセット		機器を再起動します。
3	強制電源オフ		機器を強制的にシャットダウンします。ジョブ実行後の電源の状態はシステムビューの構成図に表示される実行対象のアイコンで確認します。
4	ディスクバリ	探索	サーバー機器を探索します。

ジョブを登録するには、システムビュー画面の構成図またはツリー上から実行対象のアイコンを選択し、メニュー領域にある[ジョブ]メニューから登録するジョブを選択します。



電源操作系ジョブでは、複数の機器を選択してジョブを一度に登録することができます。例えば、10台の機器を選択してジョブを登録すると、ジョブ名の末尾には自動的に連番が付与され、10個のジョブが登録されます。なお、一度に複数選択でジョブを登録できる機器は、最大15台までです。

(1) 電源オン

[ジョブ]メニューの[電源オン]を選択すると、[電源オン]ダイアログが表示されます。

電源オン

ジョブ名:

電源オン_202007151110

リソースキー:

38314357-3237-4E43-3737-4

リソース名:

SERVER-DL360

スケジュールタイプ:

即時実行

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「電源オン_yyyyMMddHHmm」です。
2	リソースキー	機器を特定する識別 ID が自動的に設定されます。編集できません。
3	リソース名	機器の名前が自動的に設定されます。編集できません。
4	スケジュールタイプ※	次の 3 つのパターンから選択します。 ● 即時実行：登録と同時にジョブが実行されます。 ● スケジュール実行：指定日時に 1 回、ジョブが実行されます。 スケジュールタイプ: スケジュール実行 開始日: 2020/08/24 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行日を指定します。 実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。 ● 定期実行：特定の期間中、ジョブが繰り返し実行されます。

No.	項目	説明
		スケジュールタイプ: 定期実行 ▼ 開始日: 2020/08/24 ≡ 終了日: 2021/08/23 ≡ 繰り返しタイプ: 月次 ▼ 実行日: 1 ▼ 日 ☐ 月末 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行開始日を指定します。 終了日：ジョブ実行終了日を指定します。 繰り返しタイプ：日次、週次、月次から選択します。 ・日次：毎日、指定した時刻にジョブを実行します。 ・週次：毎週、指定した曜日にジョブを実行します。 ・月次：毎月 1 回、指定した日にジョブを実行します。月末を指定する場合は月末のチェックボックスをチェックします。 実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。

※入力必須の項目です。

(2) リセット

[ジョブ]メニューの[リセット]を選択すると、[リセット]ダイアログが表示されます。

リセット

ジョブ名:

リセット_202007151114

リソースキー:

38314357-3237-4E43-3737-

リソース名:

SERVER-DL360

スケジュールタイプ:

即時実行

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。ジョブ名以外の項目は、[電源オン]ジョブと同じです。「(1) 電源オン」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「リセット _yyyyMMddHHmm」です。

※入力必須の項目です。

(3) 強制電源オフ

[ジョブ]メニューの[強制電源オフ]を選択すると、[強制電源オフ]ダイアログが表示されます。

強制電源オフ

ジョブ名:

強制電源オフ_202007151117

リソースキー:

38314357-3237-4E43-3737-1■■■■■

リソース名:

SERVER-DL360

スケジュールタイプ:

即時実行 ▼

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。ジョブ名以外の項目は、[電源オン]ジョブと同じです。「(1)電源オン」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「強制電源オフ_YYYYMMddHHmm」です。

※入力必須の項目です。

● HA8000V/RV3000 へのジョブ実行に関する注意事項

- ・ 複数のユーザーおよびWebブラウザから同一のジョブおよびタスクを対象にした操作を同時に行わないでください。操作が競合すると予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ 1つの操作対象に対して、同時刻に実行するジョブを複数登録しないでください。登録した場合、予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ 運用ジョブ画面において、カレンダーおよび時間の入力支援ダイアログを表示して日付または時間を入力してもダイアログは自動的に閉じません。ダイアログを閉じるには、ダイアログ以外の場所をクリックしてください。
- ・ 定期実行ジョブで月末にジョブを実行する場合は、「月末」チェックをオンにしてください。31日を指定した場合、30日が月末の月にはジョブは実行されません。
- ・ 電源操作ジョブでエラーが発生した場合、しばらく時間をおいてから再実行することでエラーが解消することがあります。繰り返すエラーが発生する場合は管理者に連絡してください。

3. 3. 2 vCenter へのジョブ実行

ジョブを登録、実行してシステムビュー画面の仮想マシンを操作できます。登録可能なジョブは次のとおりです。

No.	ジョブの種類	種別	説明
1	仮想マシン電源 ON	電源操作	仮想マシンの電源をオンにします。
2	ゲスト OS のシャットダウン		仮想マシンのゲスト OS をシャットダウンします。
3	ゲスト OS の再起動		仮想マシンのゲスト OS を再起動します。
4	仮想マシン電源強制停止		仮想マシンの電源を強制的にオフにします。
5	スナップショット作成	スナップショット操作	仮想マシンにスナップショットを作成します。
6	スナップショット移動		仮想マシンをスナップショットまで移動します。
7	スナップショット削除		仮想マシンのスナップショットを削除します。

ジョブを登録するには、システムビュー画面の構成図またはツリー上から実行対象のアイコンを選択し、メニュー領域にある[ジョブ]メニューから登録するジョブを選択します。仮想マシン以外のアイコンを選択している場合は、メニューは表示されません。



電源操作系ジョブでは、複数の仮想マシンを選択してジョブを一度に登録することができます。例えば、10 台の仮想マシンを選択してジョブを登録すると、ジョブ名の末尾には自動的に連番が付与され、10 個のジョブが登録されます。なお、一度に複数選択でジョブを登録できる仮想マシンは、最大 15 台までです。

(1) 仮想マシンの電源 ON

[ジョブ]メニューの[仮想マシン電源 ON]を選択すると、[仮想マシン電源 ON]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。

×

仮想マシン電源ON

ジョブ名:

仮想マシン電源ON_202007161559

リソースキー:

vm-25

リソース名:

CAP_develop-db01

スケジュールタイプ:

即時実行

▼

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「仮想マシン電源ON_yyyyMMddHHmm」です。
2	リソースキー	仮想マシンを特定する識別 ID が自動的に設定されます。編集できません。
3	リソース名	仮想マシンの名前が自動的に設定されます。編集できません。
4	スケジュールタイプ※	次の 3 つのパターンから選択します。 ● 即時実行：登録と同時にジョブが実行されます。 ● スケジュール実行：指定日時に 1 回、ジョブが実行されます。 スケジュールタイプ: スケジュール実行 ▼ 開始日: 2020/08/24 ≡ 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行日を指定します。 実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。 ● 定期実行：特定の期間中、ジョブが繰り返し実行されます。

No.	項目	説明
		スケジュールタイプ: 定期実行 ▼ 開始日: 2020/08/24 日 終了日: 2021/08/23 日 繰り返しタイプ: 月次 ▼ 実行日: 1 ▼ 日 ☐ 月末 実行時刻: 0 0 開始日: ジョブ実行開始日を指定します。 終了日: ジョブ実行終了日を指定します。 繰り返しタイプ: 日次、週次、月次から選択します。 ・日次: 毎日、指定した時刻にジョブを実行します。 ・週次: 毎週、指定した曜日にジョブを実行します。 ・月次: 毎月 1 回、指定した日にジョブを実行します。月末を指定する場合は月末のチェックボックスをチェックします。 実行時刻: ジョブ実行時刻を指定します。

※入力必須の項目です。

(2) ゲスト OS のシャットダウン

[ジョブ]メニューの[ゲスト OS のシャットダウン]を選択すると、[ゲスト OS のシャットダウン]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。

×

ゲストOSのシャットダウン

ジョブ名:

リソースキー:

リソース名:

スケジュールタイプ:

即時実行 ▼

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。ジョブ名以外の項目は、[仮想マシン電源 ON]ジョブと同じです。「(1) 仮想マシンの電源ON」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「ゲスト OS のシャットダウン_yyyyMMddHHmm」です。

※入力必須の項目です。

(3) ゲスト OS の再起動

[ジョブ]メニューの[ゲスト OS の再起動]を選択すると、[ゲスト OS の再起動]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。

なお、電源が停止状態の仮想マシンに対して[ゲスト OS の再起動]ジョブを実行すると、電源を起動します。

各項目の説明を次の表に示します。ジョブ名以外の項目は、[仮想マシン電源 ON]ジョブと同じです。「(1) 仮想マシンの電源ON」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「ゲスト OS の再起動_yyyyMMddHHmm」です。

※入力必須の項目です。

(4) 仮想マシンの電源強制停止

[ジョブ]メニューの[仮想マシン電源強制停止]を選択すると、[仮想マシン電源強制停止]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。

仮想マシン電源強制停止

ジョブ名:

仮想マシン電源強制停止_202007161606

リソースキー:

vm-25

リソース名:

CAP_develop-db01

スケジュールタイプ:

即時実行

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。ジョブ名以外の項目は、[仮想マシン電源 ON]ジョブと同じです。「(1)仮想マシンの電源ON」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「仮想マシンの電源強制停止_yyyyMMddHHmm」です。

※入力必須の項目です。

(5) スナップショットの作成

[ジョブ]メニューの[スナップショット作成]を選択すると、[スナップショット作成]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。スナップショット操作系のジョブでは、必ず単一の仮想マシンを選択してジョブを登録してください。複数の仮想マシンを選択した場合、ジョブは登録できません。

各項目の説明を次の表に示します。リソースキー、リソース名は、[仮想マシン電源 ON]ジョブと同じです。「(1) 仮想マシンの電源ON」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「スナップショット作成_yyyyMMddHHmm」です。
2	スナップショット名※	任意のスナップショット名を一意になるように入力します。半角英数字のみ入力できます。すでに存在するスナップショット名を入力することはできません。
3	スケジュールタイプ※	次の2つのパターンから選択します。 ● 即時実行：登録と同時にジョブが実行されます。 ● スケジュール実行：指定日時に1回、ジョブが実行されます。 スケジュールタイプ: スケジュール実行 開始日: 2020/08/24 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行日を指定します。

No.	項目	説明
		実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。

※入力必須の項目です。

(6) スナップショットの移動

[ジョブ]メニューの[スナップショット移動]を選択すると、[スナップショット移動]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。

スナップショット移動

ジョブ名:

スナップショット移動_202007161610

リソースキー:

vm-25

リソース名:

CAP_develop-db01

スナップショット:

- OSインストール直後 (2017-09-12 15:15:59)
- IPアドレス設定済み (2017-09-12 15:34:05)
- サブスクリプション済み (2017-09-14 12:20:07)
- ポータル起動確認 (2017-09-19 13:36:49)
- ジョブ実行確認済み (2017-09-19 15:42:04)
- 現在点

スナップショット名:

ジョブ実行確認済み

実行確認:

☐

スケジュールタイプ:

即時実行

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。リソースキーとリソース名は[スナップショット作成]ジョブと同じです。

「(5) スナップショットの作成」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「スナップショット移動_yyyyMMddHHmm」です。
2	スナップショット※	作成済みのスナップショットを階層表示しています。移動先のスナップショットを選択してください。[現在点]を選択することはできません。
3	スナップショット名	[スナップショット]で選択したスナップショット名が自動的に入力されます。直接編集することはできません。
4	実行確認※	ジョブを登録してもよい場合は、チェックをオンにしてください。誤操作防止のためのチェックです。

No.	項目	説明
5	スケジュールタイプ※	次の 3 つのパターンから選択します。 ● 即時実行：登録と同時にジョブが実行されます。 ● スケジュール実行：指定日時に 1 回、ジョブが実行されます。 スケジュールタイプ: スケジュール実行 開始日: 2020/08/24 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行日を指定します。 実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。 ● 定期実行：特定の期間中、ジョブが繰り返し実行されます。 スケジュールタイプ: 定期実行 開始日: 2020/08/24 終了日: 2021/08/23 繰り返しタイプ: 月次 実行日: 1 日 ☐ 月末 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行開始日を指定します。 終了日：ジョブ実行終了日を指定します。 繰り返しタイプ：日次、週次、月次から選択します。 ・日次：毎日、指定した時刻にジョブを実行します。 ・週次：毎週、指定した曜日にジョブを実行します。 ・月次：毎月 1 回、指定した日にジョブを実行します。 実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。

※入力必須の項目です。

(7) スナップショットの削除

[ジョブ]メニューの[スナップショット削除]を選択すると、[スナップショット削除]ダイアログが表示されます。各項目を入力し、[実行]ボタンをクリックしてジョブを登録してください。

スナップショット削除

ジョブ名:

スナップショット削除_202007161613

リソースキー:

vm-25

リソース名:

CAP_develop-db01

スナップショット:

OSインストール直後 (2017-09-12 15:15:59)

IPアドレス設定済み (2017-09-12 15:34:05)

サブスクリプション済み (2017-09-14 12:20:07)

ポータル起動確認 (2017-09-19 13:36:49)

ジョブ実行確認済み (2017-09-19 15:42:04)

現在点

スナップショット名:

ジョブ実行確認済み

実行確認:

☐

スケジュールタイプ:

即時実行

実行

キャンセル

各項目の説明を次の表に示します。ジョブ名とスケジュールタイプ以外の項目は、[スナップショットの移動]ジョブと同じです。「(6) スナップショットの移動」を参照してください。スケジュールタイプは、[スナップショットの作成]ジョブと同じです。「(5) スナップショットの作成」を参照してください。

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	任意の名称を入力します。ジョブ名のデフォルトは、「スナップショット削除_yyyyMMddHHmm」です。

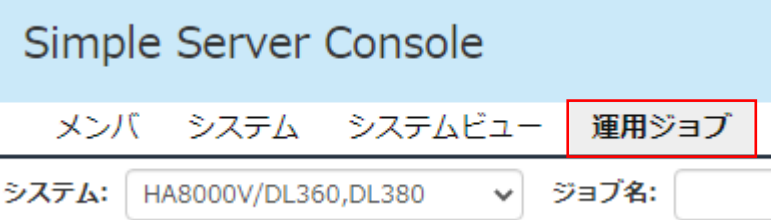
※入力必須の項目です。

● **vCenter へのジョブ実行に関する注意事項**

- ・ 電源がサスペンド状態の仮想マシンに対して電源操作のジョブを実行すると、ジョブ（タスク）はエラーとなります。電源操作はサスペンド状態以外の仮想マシンに対して行ってください。
- ・ 電源がオン、またはサスペンド状態の仮想マシンに対してスナップショットの作成を行うと、タスクはエラーとなります。スナップショットの作成は電源オフ状態の仮想マシンに対して行ってください。
- ・ 複数台の仮想マシンを選択して電源ジョブを登録した場合、設定したジョブ名の後ろに連番が自動的に付与され、仮想マシンの台数分のジョブが登録されます。1 ジョブに含まれる仮想マシンの台数は常に 1 台です。
- ・ 複数のユーザーおよび Web ブラウザから同一のジョブおよびタスクを対象にした操作を同時に行わないでください。操作が競合すると予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ 1 つの操作対象に対して、同時刻に実行するジョブを複数登録しないでください。登録した場合、予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ vSphere Client から電源オン状態で仮想マシンのスナップショットへの移動を行った場合、移動完了から数分間は、本システムからの仮想マシンの停止および再起動のタスクがエラーとなることがあります。
- ・ vSphere Client から仮想マシンに同一名称のスナップショットを複数作成すると、本システムからの仮想マシンのスナップショット操作が不正になることがあります。仮想マシンにスナップショットを作成する場合はユニークな名称をつけてください。
- ・ 運用ジョブ画面において、カレンダーおよび時間の入力支援ダイアログを表示して日付または時間を入力してもダイアログは自動的に閉じません。ダイアログを閉じるには、ダイアログ以外の場所をクリックしてください。
- ・ 定期実行ジョブで月末にジョブを実行する場合は、「月末」チェックをオンにしてください。31 日を指定した場合、30 日が月末の月にはジョブは実行されません。

3. 3. 3 ジョブの確認

画面上部タブの[運用ジョブ]を選択すると運用ジョブ画面が表示されます。運用ジョブ画面では、登録済みジョブのステータスやタスクの実行結果を確認できます。また、登録済みジョブに対して起動、停止などの操作ができます。なお、処理が終了した成功、失敗、またはキャンセル状態のタスクは、終了日時から1年間を経過すると自動で削除されます。また、タスクが1つも存在しなくなった完了状態のジョブも合わせて削除されます。



(1) ジョブ一覧

画面左上の[構成一覧]から表示したい構成を選択すると、対象のジョブの一覧が表示されます。ジョブ一覧画面を次に示します。ジョブはジョブ名や登録日時順で並び替えることができます。



① 検索フォーム

検索フォームでは、必要なジョブのみを表示できるように絞り込みができます。ジョブ名の入力やステータスを選択して、[検索]ボタンをクリックしてください。絞り込みができる内容は次のとおりです。

No.	項目	説明
1	ジョブ名	検索するジョブ名を一部またはすべて入力してください。入力されたジョブ名に部分一致するジョブを表示します。
2	ステータス	[指定しない] 全てのジョブを表示します。
3		[稼働中] 稼働中のジョブを表示します。
4		[停止] 停止したジョブを表示します。
5		[完了] 完了したジョブを表示します。

さらに詳細な絞り込みが必要な場合は、[詳細]ボタンをクリックしてください。追加の絞り込み項目を表示します。絞り込む内容を入力し、[検索]ボタンをクリックしてください。

No.	項目	説明
1	スケジュールタイプ	[指定しない]、[即時実行]、[スケジュール実行]、[定期実行]から選択します。
2	次回実行予定時刻	次回実行予定時刻の絞り込み開始日時と終了日時を入力します。入力形式は、yyyy-MM-dd HH:mm です。カレンダーから選択することもできます。
3	前回実行タスク	前回実行タスクの絞り込み開始日時と終了日時を入力します。入力形式は、yyyy-MM-dd HH:mm です。カレンダーから選択することもできます。

② 画面切り替え

画面右上のタブからジョブ一覧とタスク一覧を切り替えることができます。

③ 詳細表示

詳細表示では、ひとつのジョブの詳細を表示します。表示された内容を編集することはできません。ジョブの詳細画面を次に示します。

×

ジョブ詳細

ジョブ名:

デイスカバリ_202007011910

ステータス:

完了

アクション:

デイスカバリ

リソースキー:

リソース名:

スケジュールタイプ:

即時実行

ジョブオーナー:

opsadmin

登録日時:

2020年7月1日 19:10

ジョブパラメータ:

パラメータ名	値
設定	[0] IPアドレス範囲: 10.10.10.1-140 [0] ポート番号: 443 [0] ユーザーID: ***** [0] パスワード: ***** [0] 強制: オフ [1] IPアドレス範囲: 10.10.10.1-140 [1] ポート番号: 443 [1] ユーザーID: ***** [1] パスワード: ***** [1] 強制: オフ

閉じる

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	ジョブ名	ジョブ名です。
2	ステータス	ジョブのステータスです。ステータスには次の3種類があります。 ● 稼働中 ジョブは稼働中の状態です。 ● 停止 ジョブは停止状態です。 ● 完了 ジョブは完了しました。
3	アクション	[システムビュー] – [ジョブ]メニューで選択したジョブ定義の名前(アクション)です。
4	リソースキー	リソースを特定する識別子です。
5	リソース名	リソースの名前です。
6	スケジュールタイプ	スケジュールタイプです。
7	予定日時	タスクを実行する予定の日時です。 スケジュールタイプが「定期実行」の場合、開始日、終了日、繰り返しタブなどの情報を表示します。
8	ジョブオーナー	ジョブを登録したユーザーIDです。
9	登録日時	ジョブの登録日時です。
10	ジョブパラメータ	各ジョブ別に登録したすべてのパラメータ情報を列挙します。

④ 関連タスクの表示

関連タスクの表示では、ジョブの定義で動作したタスクのみをタスク一覧画面で表示します。[表示]ボタンにある数字は、関連するタスクが何件あるかを示します。

⑤ ジョブの操作

[操作]ボタンでは、該当ジョブの停止や削除、停止したジョブの再開およびジョブのコピーを行うことができます。ジョブの停止は、動作する予定のタスクを停止します。ジョブの削除では、関連するタスクの情報も削除されますのでご注意ください。削除したジョブとタスクを復元することはできません。なお、複数のジョブを一括して操作することはできません。

ジョブを停止すると、次回予定されているタスクの実行を中止します。その後、ジョブを再開しても中止済みのタスクは再開しません。定期実行ジョブにおいて、ジョブの停止と再開を行うと予定どおりにタスクが実行されないことがあるため、ご注意ください。

(2) タスク一覧

画面上部右タブ[タスク一覧]をクリックすると、タスクの一覧が表示されます。タスクは、ジョブを実行するご

とに生成され、タスク一覧ではその実行状況を確認できます。タスクは予定日時や開始日時順で並び替えることができます。



① 検索フォーム

検索フォームでは、参照したいタスクのみを表示できるように絞り込みができます。ジョブ名やステータスを指定して、[検索]ボタンをクリックしてください。絞り込みができる内容は次のとおりです。

No.	項目	説明
1	ジョブ名	検索するジョブ名を一部またはすべてを入力してください。入力されたジョブ名に部分一致するジョブを表示します。ジョブ一覧から[関連タスク]ボタンをクリックしてタスク一覧を表示した場合、この項目の値は変更できません。
2	ステータス	[指定しない] すべてのタスクを表示します。
3		[待機中] 実行する前の状態のタスクを表示します。
4		[実行中] 実行中の状態のタスクを表示します。
5		[成功] 成功したタスクを表示します。
6		[失敗] 失敗したタスクを表示します。
7		[キャンセル] キャンセル状態のタスクを表示します。

さらに詳細な絞り込みが必要な場合は、[詳細]ボタンをクリックしてください。追加の絞り込み項目を表示します。絞り込む内容を入力し、[検索]ボタンをクリックしてください。

No.	項目	説明
1	予定日時	予定日時の絞り込み開始日時と終了日時を入力します。入力形式は、yyyy-MM-dd HH:mm です。カレンダーから選択することもできます。
2	開始日時	開始日時の絞り込み開始日時と終了日時を入力します。入力形式は、yyyy-MM-dd HH:mm です。カレンダーから選択することもできます。
3	終了日時	終了日時の絞り込み開始日時と終了日時を入力します。入力形式は、yyyy-MM-dd HH:mm です。カレンダーから選択することもできます。

② 画面切り替え

画面右上のタブからジョブ一覧とタスク一覧を切り替えることができます。

③ 詳細表示

詳細表示のリンクをクリックするとタスクの情報と結果の詳細が表示されます。タスクの詳細画面を次に示します。

タスク詳細

タスク名:

ディスカバリ_202007011910_1

ジョブ名:

ディスカバリ_202007011910

ステータス:

成功

タスク進捗:

2/2

タスクオーナー:

opsadmin

予定日時:

2020年7月1日 19:10

開始日時:

2020年7月1日 19:10

終了日時:

2020年7月1日 19:10

結果:

閉じる

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	タスク名	タスク名です。タスク名は、ジョブ名に連番を付与した形式で自動生成します。
2	ジョブ名	ジョブ名です。
3	ステータス	タスクのステータスです。タスクのステータスには次の5種類あります。 ● 待機中 タスクが実行を待機している状態です。この状態のタスクのみ、[中止]ボタンで実行をキャンセルできます。 ● 実行中 タスクは現在実行中です。 ● 成功 タスクは成功しました。 ● 失敗 タスクが失敗しました。 ● キャンセル タスクを中止した状態です。
4	タスクオーナー	タスク（ジョブ）を登録したユーザーIDです。

No.	項目	説明
5	予定日時	タスクを実行する予定の日時です。
6	開始日時	タスクの実行を開始した日時です。実行前の場合は、「-」（ハイフン）を表示します。
7	終了日時	タスクの実行が終了した日時です。終了前の場合は、「-」（ハイフン）を表示します。
8	結果	タスクの結果メッセージを表示します。

④ タスクの中止

タスク一覧の[中止]ボタンをクリックすると待機中ステータスのタスクを中止できます。ステータスは、[待機中]から[キャンセル]に遷移します。なお、複数のタスクを一括して操作することはできません。

3. 4 構成情報のエクスポート

システムビュー画面から、表示している構成の構成図と構成情報をエクスポートできます。システムビュー画面のメニュー領域にある[エクスポート]ボタンをクリックすると Excel ファイルをダウンロードできます。



Excel ファイルにはダウンロード時点で表示している構成図の画像データも含まれます。[表示切り替え]メニューで期待する構成図となるように調整してから、ダウンロードしてください。
ダウンロードした Excel ファイルには次のようにリソースごとの情報をシートに分割した形で出力します。

HA8000V/RV3000 構成情報をエクスポートした場合

シート名	説明
機器	サーバー名、プロセッサモデル、IP アドレス、電源の状態など、機器に関する情報を出力します。 - 出力するネットワークアダプターの数 は最大 4 個です。5 個目以降の情報は出力されません。 なお、4 個未満の場合でも列は 4 個分固定で出力します。 - 出力するファンの数 は最大 12 個です。13 個目以降の情報は出力されません。 なお、12 個未満の場合でも列は 12 個分固定で出力します。 - 出力する電源モジュールの数 は最大 4 個です。5 個目以降の情報は出力されません。 なお、4 個未満の場合でも列は 4 個分固定で出力します。
構成図	構成データの取得日時および、構成図のイメージを出力します。

vCenter 構成情報をエクスポートした場合

シート名	説明
構成図	構成データの取得日時および、構成図のイメージを出力します。
ESX ホスト	ホスト名、IP アドレス、製品名など、ESX ホストに関する一覧情報を出力します。
標準スイッチ	標準スイッチとポートグループの組み合わせごとに、VLAN ID、有効なアダプター、スタンバイ中のアダプター、アクセス可能の一覧情報を出力します。
分散仮想スイッチ	分散仮想スイッチとポートグループの組み合わせごとに、VLAN ID、VLAN タイプ、ポート数、所属する ESX ホストの一覧情報を出力します。

シート名	説明
データストア	データストアの一覧情報を出力します。
仮想マシン	仮想マシン名、OS 種別、NIC、ハードディスクなどの仮想マシンの一覧情報を出力します。 - 出力する NIC の数は最大 4 台です。5 台目以降の情報は出力されません。 - 出力するハードディスクの数は最大 5 台です。6 台目以降の情報は出力されません。
スナップショット	各仮想マシンのスナップショットの一覧情報を出力します。
テンプレート	テンプレート名、OS 種別などのテンプレートの一覧情報を出力します。
未使用 SCSI LUN	未使用 SCSI LUN の一覧情報を出力します。

● 注意事項

- 管理台数が多い場合、構成情報が出力されるまで時間がかかることがあります。
- タスクの実行中に構成を取得してエクスポートを行った場合、情報の一部が出力されないことがあります。情報が欠落していないことを確認するには、エクスポートファイル内の行に「エラーが発生しました。」のエラーメッセージが出力されていないか検索してください。エラーメッセージが出力されている場合は、最新の構成に更新した後で再度エクスポートを行ってください。
- エクスポートした各データはソートされていません。各データは任意の処理順に出力されます。
- 構成取得に失敗した機器も、収集日時、およびエラー情報が出力されます。
- 構成図のイメージは出力対象となるリソース数が多いと、表示できないか、ぼやけて表示される場合があります。

3. 5 構成履歴の保存

システムビュー画面から、表示している構成の構成情報を保存できます。システムビュー画面のメニュー領域にある [構成履歴保存] ボタンをクリックすると構成履歴保存用のポップアップが表示されます。任意の名前を入力して [保存] ボタンをクリックしてください。



これで現在の構成情報が保存されました。保存した構成情報を参照するにはメニュー領域の [構成履歴一覧] ボタンをクリックしてください。[構成履歴一覧] ボタンをクリックすると画面右下に [構成履歴一覧] が表示されますので、一覧から表示したい構成をクリックしてください。



保存済みの構成履歴を削除するには、構成履歴一覧の右側のごみ箱ボタンをクリックしてください。

構成履歴を表示すると、メニュー領域は灰色表示になり、[構成履歴モード] に遷移します。構成図には履歴一覧で選択した履歴保存時点の構成を表示します。構成履歴一覧から別の履歴を選択して、表示する構成履歴を切り替えることができます。[構成履歴モード] 中に [エクスポート] ボタンをクリックして、構成履歴保存時点の構成情報をエクスポートすることもできます。

[構成履歴モード] から元のモードに戻るには画面左上の [構成履歴モード終了] ボタンをクリックしてください。



● 注意事項

- ・ [構成履歴モード]中は、構成履歴の保存やジョブの実行など一部の機能は使用できません。
- ・ ディスクの空き容量が不足している場合は構成履歴の保存に失敗し、エラーメッセージが表示されます。不要な構成履歴を削除してから再度実行してください。

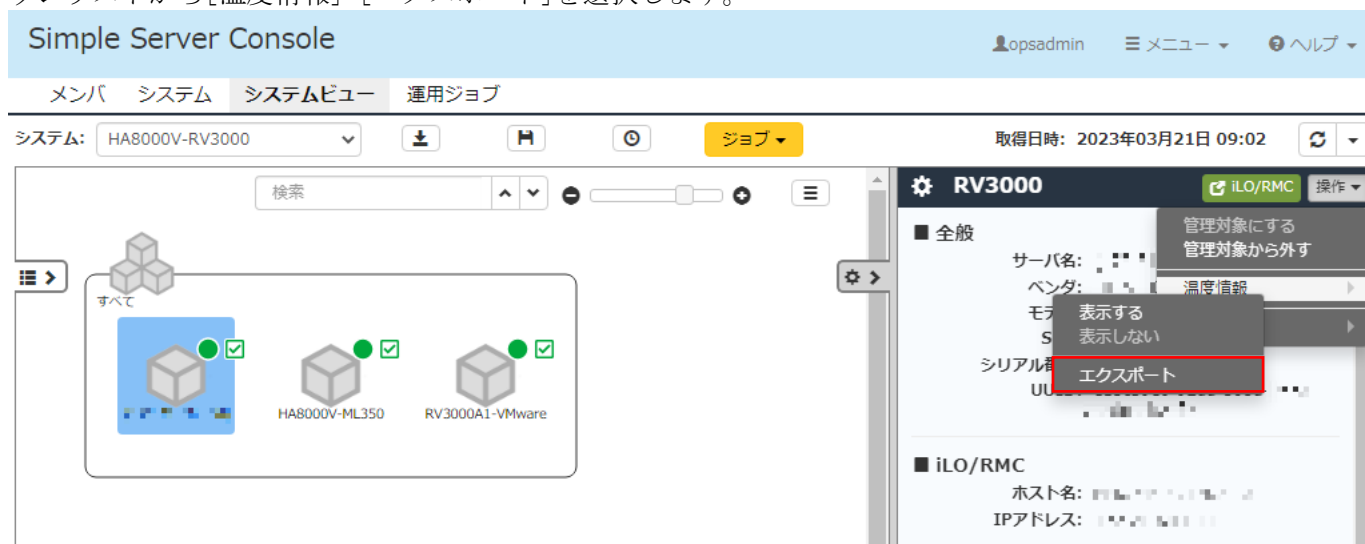
3. 6 温度情報のエクスポート

温度情報の表示機能に対応したサーバー機器から温度情報を CSV 形式のファイルにエクスポートできます。

温度情報は、「3. 2. 1 (6) 温度情報の表示・非表示」での設定によらず、構成情報の取得契機で定期的に保存されるため、エクスポートすることでサーバー機器の入気温度の遷移を確認することができます。

● 温度情報をエクスポートする

温度情報の表示機能に対応したサーバー機器またはそれを含むグループを選択したうえで、[操作] ドロップダウンリストから[温度情報]-[エクスポート]を選択します。



[温度情報をエクスポートするサーバの選択]ダイアログが表示されるので、チェックがついているサーバー機器を確認したうえで、[OK]ボタンをクリックしてください。

出力ファイルは、CSV 形式のファイルを ZIP 形式に圧縮したファイルでダウンロードされます。



● 温度情報の出力ファイル

- ・ 選択したサーバーの温度情報が、1つのCSV形式のファイルに出力されます。
- ・ 出力データは、取得日時の昇順で出力されます。
- ・ 出力ファイルの文字セットは、UTF-8です。

● 温度情報の出力項目

温度情報の出力項目を次の表に示します。

項目	説明
モデル	機器のモデル名を出力します。
シリアル番号	機器のシリアル番号を出力します。
取得日時	機器の入気温度の取得日時を「 yyyy 年 MM 月 dd 日 HH : mm 」の形式で出力します。
入気温度	機器の入気温度(℃)を整数値で出力します。

● 温度情報のエクスポートに関する注意事項

温度情報の保存期間は1年間です。1年を経過した温度情報は自動で削除されます。

3. 7 ヘルプ

ヘルプの機能は、次のとおりです。

No.	項目	説明
1	ユーザズガイド	Simple Server Console 操作編のユーザズガイドを表示します。
2	バージョン情報	Simple Server Console のバージョンを表示します。

3. 7. 1 ユーザズガイド

Simple Server Console の操作方法を参照するときは、画面右上の[ヘルプ] – [ユーザズガイド]をクリックすると Simple Server Console 操作編のユーザズガイドが表示されます。



3. 7. 2 バージョン情報

Simple Server Console のバージョンを確認するときは、画面右上の[ヘルプ] – [バージョン情報]をクリックしてください。



[バージョン情報]ダイアログが表示されるので、バージョンの項目を確認してください。確認後は、[OK]ボタンをクリックしてください。



4. 運用者の操作(各種サービス利用者向け機能)

本章では、各種サービス利用者限定して利用できる機能について説明します。

4. 1 JP1/A0 連携機能

日立 HCI ソリューション for VMware vSAN をお使いのお客様は、JP1/A0 と連携して各操作を実行することができます。JP1/A0 連携機能は、システムビュー画面でクラスタを選択した時の詳細表示領域からジョブメニューを選択することで実行することができます。

本機能は、日立 HCI ソリューション for VMware vSAN をご利用であり、且つ HCI Content Pack をご購入のお客様向けに提供する機能です。本機能を使用するためには HCI Content Pack の購入が必要となります。

日立 HCI ソリューション for VMware vSAN 及び HCI Content Pack については下記をご参照ください。

<https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/hci/menu/vsan/index.html>

HCI Content Pack では、日立 HCI ソリューション for VMware vSAN の運用に必要なオペレーションを自動化したコンテンツを提供しており、Simple Server Console は JP1/A0 と連携することで、HCI Content Pack が提供する以下の 2 つの機能を提供します。

- vSAN ローリングアップデートの実行
- サーバーFW/SW バージョンの取得

この2つの機能は、システムビュー画面でクラスタを選択した時の詳細表示領域からジョブメニューを選択することで実行できます。これらの機能を使うためには、vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位)と、vSAN ローリングアップデートの準備(クラスタ単位)を事前に行っておく必要がありますので、以下の順番でメニューを呼び出し、各種設定を行ってください。



- (1) vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位) – 基本設定
- (2) vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位) – データセット
- (3) vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位) – vSAN HCL DB 更新ファイル
- (4) vSAN ローリングアップデートの準備(クラスタ単位) – ESXi 情報設定
- (5) vSAN ローリングアップデートの準備(クラスタ単位) – DRS 情報設定

注意：

JP1/A0 連携機能は、同時に2つ以上実行しないでください。

vSAN ローリングアップデートの実行のジョブを2つ以上同時に実行したり、vSAN ローリングアップデートの実行のジョブが実行中に、サーバーFW/SW バージョンの取得を行わないでください。

複数の vSAN ローリングアップデートの実行をスケジュール実行する場合は、ジョブが重ならないように十分間隔をあけてスケジューリングしてください。

4. 1. 1 vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位) - 基本設定

vSAN ローリングアップデートに必要な基本的な設定を行います。

ローリングアップデートの準備(システム単位-基本設定)

vCenterホスト名:
vcenter1.hci.local

JP1/AO URL:
https://192.168.1.10:22016/Automation/

HCI(vSAN)環境ローリングアップデートサービス名:
HCI(vSAN)環境ローリングアップデート

FW/SWバージョン取得サービス名:
FW/SWバージョン取得

ベースラインのESXiバージョン出力サービス名:
ベースラインのESXiバージョン出力

HCIvSANRUディレクトリ(ネットワークパス):
/HCIvSANRU

HCIvSANRUディレクトリ(ローカルパス):
c:\HCIvSANRU

登録 キャンセル

設定項目

項目名	説明
HCI (vSAN) 環境ローリングアップデートサービス名 :	JP1/AO で作成した HCI (vSAN) 環境ローリングアップデートサービスの名称を入力してください。
FW/SW バージョン取得サービス名	JP1/AO で作成した FW/SW バージョン取得サービスの名称を入力してください。
ベースラインの ESXi バージョン出力サービス名	JP1/AO で作成したベースラインの ESXi バージョン出力サービスの名称を入力してください。
HCIvSANRUディレクトリ(ネットワークパス)	HCIvSANRUディレクトリのネットワーク共有側(HCI 運用管理ソフトの仮想マシンでマウントした)のパスを指定してください。
HCIvSANRUディレクトリ(ローカルパス)	HCIvSANRUディレクトリのローカル側(JP1/AO の仮想マシン側)のパスを指定してください。

4. 1. 2 vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位) - データセット
データセットを JP1/AO サーバーにアップロードします。

ローリングアップデートの準備
(システム単位-データセット)

vCenterホスト名:
vcenter1.hci.local

JP1/AO URL:
https://192.168.1.10:22016/Automation/

データセット一覧:

削除

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録

閉じる

クライアント(ブラウザ側)のファイルを選択して、登録ボタンを押して、データセットを登録してください。
登録されているデータセットを削除する場合は、データセット一覧から削除するデータセットを選択して、削除ボタンを押してください。

データセットの入手方法については、取扱説明書 Hyper-Converged Infrastructure Content Pack の 2. 1. 1 データセットを参照してください。

注意： データセットはファイルサイズが大きいため登録に時間がかかります。環境によりませんが 10 分以上かかる場合もあります。

4. 1. 3 vSAN ローリングアップデートの準備(システム単位) - vSAN HCL DB 更新ファイル
vSAN HCL DB 更新ファイルを JP1/A0 サーバーにアップロードします。



ローリングアップデートの準備
(システム単位 - vSAN HCL DB更新ファイル)

vCenterホスト名:
vcenter1.hci.local

JP1/AO URL:
https://192.168.1.10:22016/Automation/

vSAN HCL DB更新ファイル:
登録日:2022/04/22 19:32:47
ファイルを選択 選択されていません

登録

閉じる

クライアント(ブラウザ側)のファイルを選択して、登録ボタンを押して、vSAN HCL DB 更新ファイルを登録してください。vSAN HCL DB 更新ファイルについては、取扱説明書 Hyper-Converged Infrastructure Content Pack HCI (vSAN) 運用自動化強化 サービステンプレート(ローリングアップデート編)の 5.2 HCI (vSAN) 環境ローリングアップデートを参照してください。

4. 1. 4 vSAN ローリングアップデートの準備(クラスタ単位) - ESXi 情報設定

クラスタを構成する各 ESXi サーバーのポート番号・認証情報を登録します。

ローリングアップデートの準備(クラスタ単位-ESXi情報設定)

クラスタ名:
vSAN Cluster 01

ESXi情報一覧:

ESXiホスト名	SSHポート番号	Webポート番号	ユーザ名	パスワード	操作
esxi1.hci.local	22	443	root		削除
esxi2.hci.local	22	443	root		削除
esxi3.hci.local	22	443	root		削除

登録

キャンセル

設定項目

項目名	説明
SSH ポート番号	ESXi サーバーの SSH ポート番号を指定してください。デフォルトは 22 です。
Web ポート番号	ESXi サーバーの Web ポート番号を指定してください。デフォルトは 443 です。
ユーザ名	ESXi サーバーにログインする時のユーザー名を指定してください。
パスワード	ESXi サーバーにログインする時のパスワードを指定してください。

削除ボタンを押すと、HCI 運用管理ソフトから、ポート番号・認証情報を削除します。

登録ボタンを押すと、HCI 運用管理ソフトにポート番号・認証情報を登録します。

注意：

ESXi サーバーがアドミッションコントロールを有効にしている場合、ローリングアップデートが失敗しますので、無効に設定してください。

4. 1. 5 vSAN ローリングアップデートの準備(クラスタ単位) - DRS 情報設定
vSAN 環境の DRS 設定を登録します。

ローリングアップデートの準備
(クラスタ単位-DRS情報設定)

クラスタ名:
vSAN Cluster 01

DRS設定:

- ☐ 完全自動
- ☒ 完全自動ではない

仮想マシン稼働先ホスト定義ファイル:
登録日:2022/04/25 14:52:40
 選択されていません

DRS 設定が完全自動の場合は、「完全自動」を選択して、登録してください。

DRS 設定が完全自動でない場合は、「完全自動ではない」を選択して、クライアント(ブラウザ)側の、仮想マシン稼働先ホスト定義ファイルを指定して、登録ボタンを押してください。ファイルを JP1/A0 サーバーにアップロードします。

4. 1. 6 vSAN ローリングアップデートの実行

JP1/A0 と連携し、vSAN ローリングアップデートを実行します。

×

ローリングアップデート

ジョブ名:

ローリングアップデート実行_202209211513

クラスタ名:

vSAN Cluster

ESXiを更新する:

☒

ベースライン:

VM7U3C

オブジェクト復旧タイムアウト(分):

60

vSANディスクフォーマットをアップグレードする:

☒

FW・SWを更新する:

☒

データセット:

☒ 1つを選択
 ☐ すべて選択

DSET_850_22061M_30_SPH650.dat

再適用:

☐

スケジュールタイプ:

即時実行

確認

キャンセル

No.	項目	説明
1	ジョブ名※	ジョブ名を指定します
2	ESXi を更新する	ESXi (OS) を更新する場合にチェックを入れます
3	ベースライン	事前に vCenter サーバーに登録したベースライン名を指定します
4	オブジェクト復旧タイムアウト	オブジェクト復旧タイムアウト時間を分単位で登録します。デフォルトは 60 分です。
5	vSAN ディスクフォーマットをアップグレードする	vSAN ディスクフォーマットをアップグレードする場合にチェックを入れます。
6	FW・SW を更新する	FW・SW を更新する場合にチェックを入れます

No.	項目	説明
7	データセット	適用するデータセットを選択します。 データセットを1つだけ選択するか、すべてを選択するかを選べます。すべてを選択した場合は、古いデータセットから順番に FW/SW 更新が行われ、最新のデータセットが最後に適用されます。
8	再適用	前回と同じデータセットを再適用する場合にチェックを入れます。 再適用を選択した場合は、データセットは前回最後の適用したものを1つだけ選択する必要があります。
9	スケジュールタイプ※	次の2つのパターンから選択します。 ● 即時実行：登録と同時にジョブが実行されます。 ● スケジュール実行：指定日時に1回、ジョブが実行されます。 スケジュールタイプ: スケジュール実行 ▼ 開始日: 2020/08/24 ≡ 実行時刻: 0 0 開始日：ジョブ実行日を指定します。 実行時刻：ジョブ実行時刻を指定します。

※入力必須の項目です。

確認ボタンを押すと確認のポップアップダイアログが表示され、OK を押すと「ローリングアップデートの実行 – 確認」画面が表示されます。内容を確認して、ローリングアップデートを実行する場合は、実行ボタンを押してください。

ローリングアップデートの実行 - 確認

ジョブ名:

ローリングアップデート実行_202209211513

リソースキー:

adocvcs1.ad.example.com-vSAN Datacenter-vSAN Cluster

リソース名:

vSAN Cluster

スケジュールタイプ:

即時実行

ESXiを更新する:

ベースライン:

VM7U3C

バージョン:

7.0.1 → 7.0.3

FW/SWを更新する:

データセット:

DSET_B50_22061M_30_SPH650.dat

ホスト名	名称	現在バージョン	データセットバージョン
esxi1.hci.local	iLO 5	2.63 Jan 20, 2022	2.63
esxi1.hci.local	System ROM	U32 v2.62 (03/08/2022)	U32 v2.62 (03/08/2022)
esxi1.hci.local	Power Management Controller Firmware	1.0.8	1.0.7
esxi1.hci.local	Innovation Engine (IE) Firmware	0.2.3.0	0.2.2.2
esxi1.hci.local	Server Platform Services (SPS) Firmware	4.1.4.601	4.1.4.505
esxi1.hci.local	HPE Eth 10/25Gb 2p 6405FP28 Adptr	14.31.1200	14.31.1200

実行

キャンセル

No.	項目	説明
1	ジョブ名	指定したジョブ名が表示されます
2	リソースキー	リソースキーが表示されます
3	リソース名	リソース名が表示されます
4	スケジュールタイプ	指定したスケジュールタイプが表示されます。
5	ESXi を更新する	ESXi (OS) を更新する場合に表示されます
6	ベースライン	指定したベースライン名が表示されます
7	バージョン	現在のバージョンと、更新後のバージョンが表示されます。 ベースラインにパッチを指定した場合は、更新後のバージョンは、現在のバージョンと変更が無い場合、空欄になります。
8	FW/SW を更新する	FW・SW を更新する場合に表示されます
9	データセット	指定したデータセットが表示されます
10	-	現在の FW/SW のバージョンと、データセット内の FW/SW バージョンが表示されます
11	ホスト名	ホスト名が表示されます
12	名称	FW/SW コンポーネントの名称が表示されます
13	現在バージョン	FW/SW コンポーネントの現在のバージョンです
14	データセットバージョン	FW/SW コンポーネントのデータセット内のバージョンが表示されます。ローリングアップデート後、このバージョンに更新されます。

88/112

4. 1. 7 vSAN ローリングアップデートのジョブの確認

他のジョブと同様に vSAN ローリングアップデートのジョブの確認を行うことができます。ジョブの確認方法については、3. 3. 3 項を参照してください。

ジョブの詳細画面を次に示します。

ジョブ詳細

ジョブ名:

ローリングアップデート実行_202204231629

ステータス:

完了

アクション:

ローリングアップデート

リソースキー:

vccenter1.hci.local-vSAN Datacenter-vSAN Cluster 01

リソース名:

vSAN Cluster 01

スケジュールタイプ:

スケジュール実行

予定日時:

2022年4月23日 16:45

ジョブオーナー:

userA

登録日時:

2022年4月23日 16:36

ジョブパラメータ:

ESXiを更新する:

ベースライン:

VM7U3C

FW・SWを更新する:

データセット:

c:¥HCiV\$SANRU¥Dataset

閉じる

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	ジョブ名	ジョブ名です。
2	ステータス	ジョブのステータスです。ステータスには次の3種類があります。 - 稼働中 ジョブは稼働中の状態です。 - 停止 ジョブは停止状態です。 - 完了 ジョブは完了しました。
3	アクション	[システムビュー] - [ジョブ]メニューで選択したジョブ定義の名前(アクション)です。
4	リソースキー	リソースを特定する識別子です。

No.	項目	説明
5	リソース名	リソースの名前です。
6	スケジュールタイプ	スケジュールタイプです。
7	予定日時	タスクを実行する予定の日時です。 スケジュールタイプが「定期実行」の場合、開始日、終了日、繰り返しタブなどの情報を表示します。
8	ジョブオーナー	ジョブを登録したユーザーID です。
9	登録日時	ジョブの登録日時です。
10	ジョブパラメータ	各ジョブ別に登録したすべてのパラメータ情報を列挙します。

タスクの詳細画面を次に示します。

タスク詳細

タスク名:

ローリングアップデート実行_202204231629_1

ジョブ名:

ローリングアップデート実行_202204231629

ステータス:

成功

タスク進捗:

100/100

タスク進捗(サーバ単位):

3/3

処理中ホスト:

-

完了ホスト:

esxi2.hci.local
esxi3.hci.local
esxi1.hci.local

タスクオーナー:

-

予定日時:

2022年4月23日 16:45

開始日時:

2022年4月23日 16:45

終了日時:

2022年4月23日 17:59

結果:

JP1/AOのタスクID: 81402
/ParametersCheck/Message:
指定されたディレクトリが配置されていることを確認しま
す。(コマンド: Test-Path
'c:\¥HClvSANRU¥HSUAT' -PathType Container)
指定されたディレクトリが配置されていることを確認しまし
た

閉じる

各項目の説明を次の表に示します。

No.	項目	説明
1	タスク名	タスク名です。タスク名は、ジョブ名に連番を付与した形式で自動生成します。
2	ジョブ名	ジョブ名です。
3	ステータス	タスクのステータスです。タスクのステータスには次の5種類あります。 ● 待機中

No.	項目	説明
		タスクが実行を待機している状態です。この状態のタスクのみ、[中止]ボタンで実行をキャンセルできます。 ● 実行中 タスクは現在実行中です。 ● 成功 タスクは成功しました。 ● 失敗 タスクが失敗しました。結果欄の指示にしたがい対応を行ってください。結果欄の情報で対応できない場合は、取扱説明書「Hyper-Converged Infrastructure Content Pack HCI (vSAN) 運用自動化強化 サービステンプレート(ローリングアップデート編)」の7章「障害時の対応について」を参照して、対応を行ってください。 “このタスクは強制タイムアウトされました。”と表示されている場合、JP1/A0のタスクはまだ継続中の場合があります。JP1/A0の画面からタスクの状態を確認し、継続中の場合は処理が完了するまでお待ちください。 ● キャンセル タスクを中止した状態です。
4	タスク進捗	ローリングアップデート全体の進捗です。 ホスト個別の進捗ではなく、全ホストまとめた進捗になります。 全ホストの処理が完了した時点で100%となります。
5	タスク進捗(サーバ単位)	サーバー単位の進捗です。「処理が完了したホスト/全ホスト数」の形式で表示されます。 指定したデータセットおよびベースラインを適用済みのホストがあった場合、当該ホストに対する更新処理は不要のため行いません。その場合、“処理が完了したホスト”としてはカウントされません。“処理が完了したホスト”には実際に更新処理が行われたホストの数を表示します。
6	処理中ホスト	現在、アップデート実行しているホストです
7	完了ホスト	アップデートが完了したホストの一覧です。 実際に更新処理が行われたホストのみ表示します。
8	タスクオーナー	タスク（ジョブ）を登録したユーザーIDです。
9	予定日時	タスクを実行する予定の日時です。
10	開始日時	タスクの実行を開始した日時です。実行前の場合は、「-」（ハイフン）を表示します。
11	終了日時	タスクの実行が終了した日時です。終了前の場合は、「-」（ハイフン）を表示します。
12	結果	タスクの結果メッセージを表示します。

注：各タスクの進捗情報(タスク進捗、タスク進捗(サーバ単位)、処理中ホスト、完了ホスト)については、自動的に更新されません。最新の情報を確認したい場合は、一旦、画面を閉じて、再度開いてください。

4. 1. 8 サーバーFW/SW バージョンの取得

FW・SW のバージョンを取得します。実行パラメータを設定した後、JP1/A0 と通信してバージョン情報を取得し、バージョン情報を取得します。

サーバFW/SWバージョンの取得 - パラメータ設定

クラスタ名:
Cluster-01

データ
セット: ☒ 1つを選択 ☐ すべてを選択

DSET_850_22061M_20_SPH650.dat

再適用: ☐

バージョンの取得

キャンセル

No.	項目	説明
1	データセット※	使用するデータセットを選択します。 データセットを1つだけ選択するか、すべてを選択するかを選べます。すべてを選択した場合は、データセットの中で最新のデータセットの情報がデータセットバージョンとして表示されます。
2	再適用※	下記※を参照して、必要な場合にチェックを入れてください。 再適用を選択した場合は、データセットは前回最後の適用したものを1つだけ選択する必要があります。

※vSAN ローリングアップデートの実行を行った場合に、最終的にどのバージョンに FW/SW がアップデートされるかを事前に確認したい場合は、データセットと再適用のパラメータを、vSAN ローリングアップデートの実行で指定する予定の値にそろえて、バージョンの取得を行ってください。データセットバージョンとして、アップデート予定のバージョンが確認できます。

バージョンの取得ボタンを押すと確認のポップアップダイアログが表示され、OK を押すと以下のバージョン情報の画面が表示されます。

バージョン情報の表示には、目安時間として、データセット 1 つを指定した場合約 3 分かかります。すべてのデータセットを指定した場合は、登録されているデータセット数に比例します。

なお、現在バージョンとデータセットバージョンに差異がある場合、その行は現在バージョンが赤字、背景が水色で表示されます。

サーバFW/SWバージョンの取得 - バージョン表示			
データセット: DSET_850_22061M_09_SPH650.dat			
ホスト名	名称	現在バージョン	データセットバージョン
esxi1.hci.local	iLO 5	2.44 Apr 30 2021	2.63
esxi1.hci.local	System ROM	U30 v2.50 (05/24/2021)	U30 v2.62 (03/08/2022)
esxi1.hci.local	HPE Ethernet 1Gb 4-port 331i Adapter - NIC	20.18.31	20.18.31
esxi1.hci.local	HPE Smart Array E208i-a SR Gen10	3.53	4.11
esxi1.hci.local	Drive	HPD4	HPD5
esxi1.hci.local	HPE-Utility-Component	10.5.0-63	10.8.0.700-22
esxi1.hci.local	Microchip-smartpqi	70.4054.2.118-10EM.700.1.0.15843807	70.4150.0.119-10EM.700.1.0.15843807
esxi1.hci.local	amsdComponent	700.11.6.10.4-1	701.11.8.0.15-1
esxi1.hci.local	cru-driver	700.10.16-10EM.700.0.0.14828939	700.10.16-10EM.700.0.0.14828939
esxi1.hci.local	fc-enablement-component	700.3.6.0.4-1	700.3.8.0.6-1

閉じる

No.	項目	説明
1	データセット	指定したデータセットが表示されます
2	ホスト名	どのホストのバージョン情報かを表します
3	名称	FW・SW のデバイス名称を表します
4	現在バージョン	現在バージョンです。実際に取得できたバージョンを表示します。
5	データセットバージョン	データセットから取得したバージョンです。 このデータセットを適用した場合、このバージョンに更新されます。

4. 2 サーバーの利用状況の取得の設定と結果のダウンロード機能

本機能は、IT 基盤ユーティリティサービスをご利用のお客様向けに提供する機能です。

IT 基盤ユーティリティサービスについては下記をご参照ください。本機能は、Simple Server Console バージョン 1.4.0 以降は非サポートです。

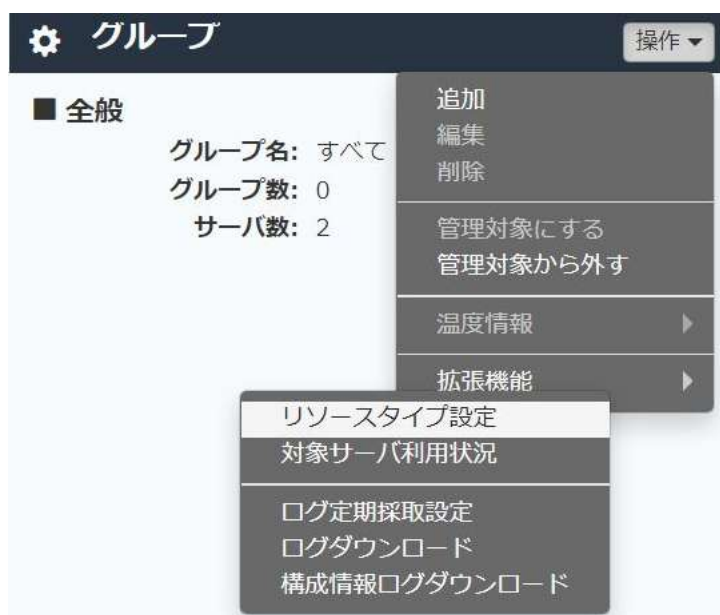
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/storage-solutions/itkus/index.html>

本機能を使用すると、IT 基盤ユーティリティサービスを利用する際に必要となる、サーバー利用状況の自動取得および利用結果のダウンロードを行うことができます。入手した情報は、IT 基盤ユーティリティサービスの利用申請に使用します。詳細は、IT 基盤ユーティリティサービスのサービス利用ガイドをご確認下さい。

Simple Server Console でこの機能を使用する場合は、サーバーの利用状況の取得・蓄積の設定が必要になります。設定後、Simple Server Console にサーバー利用状況が蓄積されます。蓄積されたサーバー利用状況出力するには、対象サーバー利用状況のダウンロードを行います。

4. 2. 1 サーバーの利用状況の取得・蓄積の設定

サーバーの利用状況の取得・蓄積の設定を行うためには、システムビュー画面で HA8000V/RV3000 のシステムを選択し、HA8000V サーバーのアイコンを選択して、詳細表示領域の[操作]ドロップダウンメニューから「拡張機能」-「リソースタイプ設定」を選択し、リソースタイプ設定画面を表示してください。



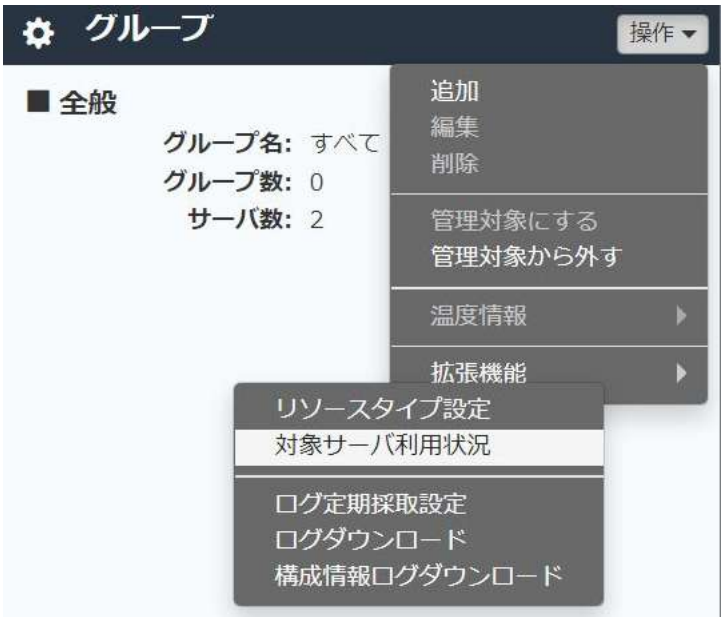


項目

項目名	説明
サーバ	選択したアイコンのサーバーの一覧が表示されます。
リソースタイプ	サーバーのリソースタイプを設定します。 「未選択」「基本」「予備」の3つから選択できます。 基本：サーバーが使用中のリソースであることを設定します 予備：サーバーが予備リソースであることを設定します。 サーバーの利用状況の取得・蓄積を行う時は、「基本」または「予備」を設定してください。「構成情報の自動取得間隔」(2. 3. 1項を参照)の時間間隔でサーバーの利用状況を取得し蓄積を行います。

4. 2. 2 対象サーバー利用状況のダウンロード

サーバーの利用状況のダウンロードを行うためには、システムビュー画面で HA8000V/RV3000 のシステムを選択し、HA8000V サーバーのアイコンを選択して、詳細表示領域の[操作]ドロップダウンメニューから「拡張機能」-「対象サーバ利用状況」を選択し、対象サーバ利用状況のダウンロード画面を表示してください。



対象サーバ利用状況のダウンロード

サーバ:

dl380vm7u2 (2B303147-0000-4756-3032-4E5030313632)
dl36vm7u3c (30393738-3537-4753-4839-313157575834)
DL580-ESXi703U3 (39314357-3934-4E43-3737-313730395436)

対象年月:

2022/09

ダウンロード

キャンセル

項目

項目名	説明
サーバ	選択したアイコンのサーバーの一覧が表示されます。
対象年月	ダウンロードするサーバー利用状況情報の年月を指定します。 年月の情報の後ろに「(欠損あり)」と表示されている場合は、選択されているサーバーの一部の情報が足りていないことを示します。 ダウンロードする情報が無い場合は、「該当なし」が表示されます。4. 2. 1 項を参照し、サーバーの利用状況の取得・蓄積の設定を行って、少なくとも「構成情報の自動取得間隔」(2. 3. 1 項を参照)の時間を待ってから、再度対象サーバ利用状況のダウンロード画面を開いてください。

ダウンロードボタンを押すとファイルのダウンロードが開始されます。ダウンロードされたファイルの保存先やファイル名は Web ブラウザの設定によりますので、Web ブラウザのマニュアル等を確認してください。デフォル

トのファイル名は、METERING_yyyymm.zip (yyyy は年、mm は月) です。

ダウンロードしたファイルは、ZIP で1つにアーカイブされています。ZIP ファイルに含まれるファイルの一覧は以下です。

ZIP ファイルに含まれるファイルの一覧

ファイル	ファイル名	説明
サーバー利用状況サマリ	SV_USAGE_DAYS_<リソースタイプ>_<シリアル番号>_<年月>.txt または、 ERROR_SV_USAGE_DAYS_<リソースタイプ>_<シリアル番号>_<年月>.txt	対象年月におけるサーバーの利用有無および利用状況をまとめたファイルです。 内容の詳細は、4. 2. 3項を参照してください。 サーバー利用状況の判定ができなかった場合は、ファイル名の先頭に ERROR_が付きます。
電源状態ログ	PSL_<リソースタイプ>_<シリアル番号>_<年月>.csv	サーバーの電源状態を記録したログファイルです。
装置ログ	LOG_<リソースタイプ>_<シリアル番号>.zip	サーバー装置のログファイルです。
取得データリスト	LIST.txt	本 ZIP ファイルに含まれる“サーバー利用状況サマリ”，“電源状態ログ”，“装置ログ”の取得成否を、サーバーごとにまとめたリストです。 内容の詳細は、4. 2. 4項を参照してください。

※<リソースタイプ>は「BASIC」（基本リソース）または、「RESERVE」（予備リソース）になります。

4. 2. 3 サーバー利用状況サマリのフォーマット

サーバー利用状況サマリのフォーマットを示します。

◆サーバ利用有無の判定結果

- ・サーバシリアル番号：*****
- ・リソースタイプ：予備リソース
- ・対象年月：202206
- ・判定結果：利用あり
- ・利用日：3, 15, 16, 17, 18・・・31
- ・利用日数：17 日
- ・判定不可の日：5, 6, 7
- ・当月開始時点の電源情報：ON(2022/06/01 00:01:11)

詳細

項目名	説明
サーバシリアル番号	サーバーのシリアル番号です。
リソースタイプ	リソースタイプ設定(4. 2. 1 項)で指定したリソースタイプです。
対象年月	本ファイルの対象年月です。
判定結果	対象年月における当該サーバーの利用有無を判定した結果です。 表示される判定結果および判定条件は以下です。 利用あり：利用日数が 5 日以上ある 利用なし：利用日数+判定不可の日の数が 4 日以下 判定不可：上記以外の場合
利用日	対象年月において当該サーバーを利用した日を列挙します。 その日、電源 ON の状態があった場合、利用日と判定されます。
利用日数	利用日として列挙した日数です
判定不可の日	利用日かどうか判定できなかった日を列挙します。 以下の条件にすべて該当する場合に判定不可となります。 ・その日、電源 ON 状態と一度も認識されなかった ・その日、電源状態が確認できなかったタイミングがある
当月開始時点の電源情報	その月で、最初に電源状態を確認できた時の電源状態と確認できた日付です。

4. 2. 4 取得データリストのフォーマット

取得データリストのフォーマットを示します。

〈シリアル番号〉	利用状況データ：xxx	ログ：xxxx
〈シリアル番号〉	利用状況データ：xxx	ログ：xxxx
：		

詳細

項目名	説明
シリアル番号	サーバーのシリアル番号です
利用状況データ	「あり」「なし」のいずれかになります。 サーバー利用状況サマリと電源状態ログがある場合に、「あり」になります。
ログ	「あり」「なし」のいずれかになります。 装置ログがある場合に「あり」になります。

4. 3 ログの定期採取設定とログのダウンロードとログの送信機能

本機能は、ハードウェア安定稼働支援サービス、EverFlex From Hitachi 関連サービスをご利用のお客様向けに提供する機能です。本機能を使用するためには、ハードウェア安定稼働支援サービスまたは EverFlex From Hitachi 関連サービスのご契約が必要となります。

ハードウェア安定稼働支援サービスについては下記をご参照ください。

https://www.hitachi.co.jp/products/it/ha8000v/support/service/hardware_stable_operation/index.html

EverFlex From Hitachi 関連サービスについては下記をご参照ください。

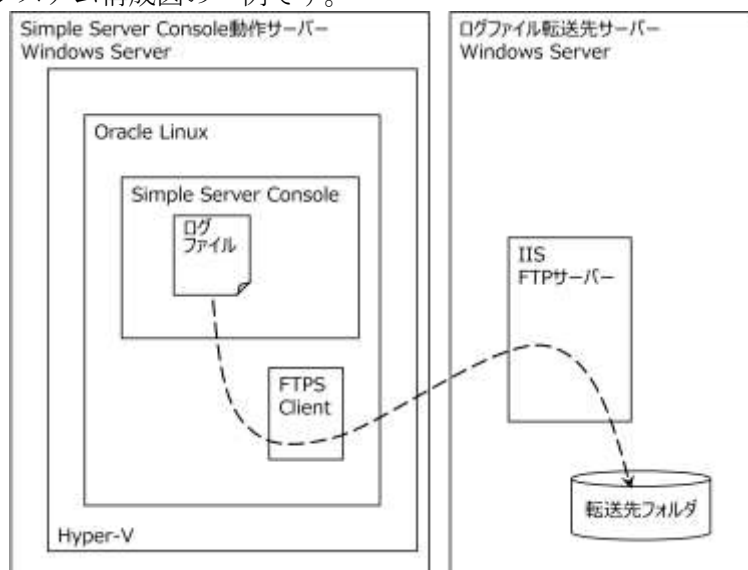
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/everflex/services.html>

本機能を使用すると、各サービスでは、以下のように活用できます。

- ・ハードウェア安定稼働支援サービスの利用時に必要となる構成情報ログファイルの定期的な採取、およびダウンロードを行うことができます。本機能を利用して入手するログファイルは、ハードウェア安定稼働支援サービスをご利用のお客様が構成情報を更新する際に活用できます。なお、ドライバなどのバージョン情報を取得するためには、管理対象サーバーで AMS が稼働している必要があります。AMS は、単独でインストールするか SPH/SPR を適用することでインストールされます。装置のダウンロードサイトをご確認頂き、AMS の掲載バージョンと SPH/SPR に収録されている AMS のバージョンを確認して最新版を適用するようにお願いします。AMS/SPH/SPR の適用方法については、AMS/SPH/SPR のドキュメントを参照ください。

- ・EverFlex From Hitachi 関連サービスの利用時に必要となる稼働状況ログファイルの定期的な採取、およびダウンロードを行うことができます。本機能を利用して入手するログファイルは、EverFlex From Hitachi 関連サービスをご利用のお客様がサーバー装置の稼働状況を確認する際に活用できます。

また、ログファイルの定期採取のタイミングで、ログファイル転送先サーバーにログファイルの送信を行うことができます。以下は Simple Server Console 動作サーバーおよびログファイル転送先サーバーとして Windows Server を使用したときのシステム構成図の一例です。



ログファイル転送先サーバーに転送されたログファイルは、ハードウェア安定稼働支援サービス、および

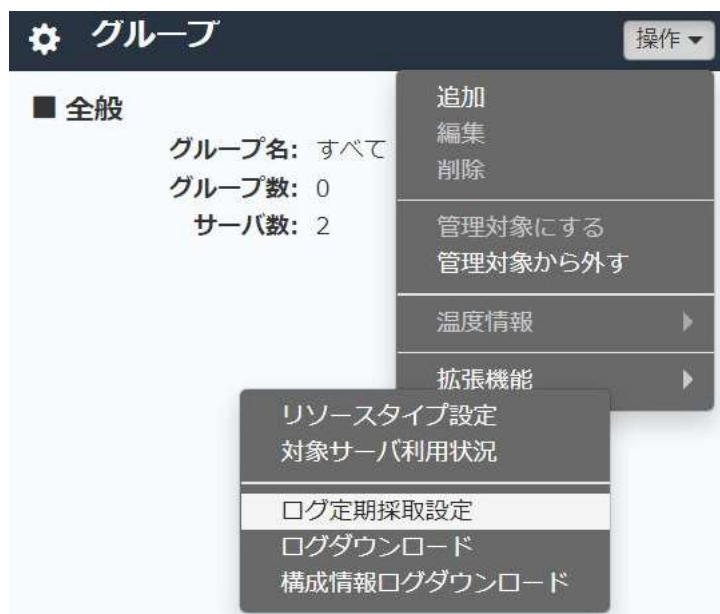
EverFlex From Hitachi 関連サービスにて使用します。詳細は、各サービスの関連ドキュメントをご確認ください。

Simple Server Console でこの機能を使用する場合は、まず、各サーバーに対してログの定期採取設定を行ってください。定期的にログの採取が行われ、Simple Server Console に最新のログが保存されます。さらに、ログの送信を行う場合は、2. 3. 1 項を参照してログファイル転送先サーバーと各ログの送信有無の設定を行ってください。

保存されたログを出力するには、ログダウンロードを行ってください。

4. 3. 1 ログの定期採取設定

ログの定期採取の設定を行うためには、システムビュー画面で HA8000V/RV3000 のシステムを選択し、HA8000V サーバーのアイコンを選択して、詳細表示領域の[操作]ドロップダウンメニューから「拡張機能」-「ログ定期採取設定」を選択し、ログ定期採取設定画面を表示してください。



ログ定期採取設定

サーバ

ログ採取

SRV008288A43	採取しない
vmware67u3	採取しない
esxi67u3	採取しない

OK

キャンセル

項目

項目名	説明
サーバ	選択したアイコンのサーバーの一覧が表示されます。
ログ採取	ログ採取の有無を設定します。 「採取しない」「採取する」の2つから選択できます。 採取しない：ログの定期採取を行いません 採取する：ログの定期採取を行います ログの定期採取を行う場合は、「採取する」を設定してください。運用ログは毎日 1:00 に、稼働状況ログは 10 分毎の間隔で、構成情報ログは毎日 2:00 に、ログを採取します。既にログがある場合は上書きで保存され、最新のログのみ保存されます。 ログファイル転送先サーバーの設定(2. 3. 1 項を参照)がされていて、ログの採取に成功した場合は、ログファイル転送先サーバーの設定に従って、ログファイル転送先サーバーの SSC ディレクトリにログの送信が行われます。送信されるファイルの内容については、4. 3. 4 項を参照してください。

● 構成情報ログの採取に関する注意事項

- ・構成情報ログにドライバ情報も含めて採取したい場合は、iLO と AMS が接続状態となっている必要があります。構成情報ログを採取する時刻の 2:00 に、装置を電源オンとし iLO と AMS が接続状態としておいてください。

● ログ削除に関する注意事項

以下の場合、該当サーバーのログが削除されますので、操作時には注意してください。

- ・ログ採取を「採取する」に設定していたサーバーを「採取しない」に変更した場合
- ・該当サーバーを管理対象から外した場合
- ・該当サーバーが含まれるシステムを消した場合

4. 3. 2 ログのダウンロード

EverFlex From Hitachi 関連サービスをご利用のお客様向けに提供する機能です。サーバーのログのダウンロードを行うためには、システムビュー画面で HA8000V/RV3000 のシステムを選択し、HA8000V サーバーのアイコンを選択して、詳細表示領域の[操作]ドロップダウンメニューから「拡張機能」-「ログダウンロード」を選択し、ログダウンロード画面を表示してください。



項目	
項目名	説明
サーバ	選択したアイコンのサーバーの一覧が表示されます。

ダウンロードボタンを押すとファイルのダウンロードが開始されます。ダウンロードされたファイルの保存先やファイル名は Web ブラウザの設定によりますので、Web ブラウザのマニュアル等を確認してください。デフォルトのファイル名は、LOG.zip です。

ダウンロードしたファイルは、ZIP で1つにアーカイブされています。ZIP ファイルに含まれるファイルの一覧は以下です。

ZIP ファイルに含まれるファイルの一覧

ファイル	ファイル名	説明
運用ログ	SSCMT_HA8KV_<シリアル番号>_<日時>.zip	サーバー装置の運用・保守で使用するログファイルです。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。
稼働状況ログ	SSCOP_HA8KV_<シリアル番号>_<日時>	サーバー装置の稼働状況を記録したログファ

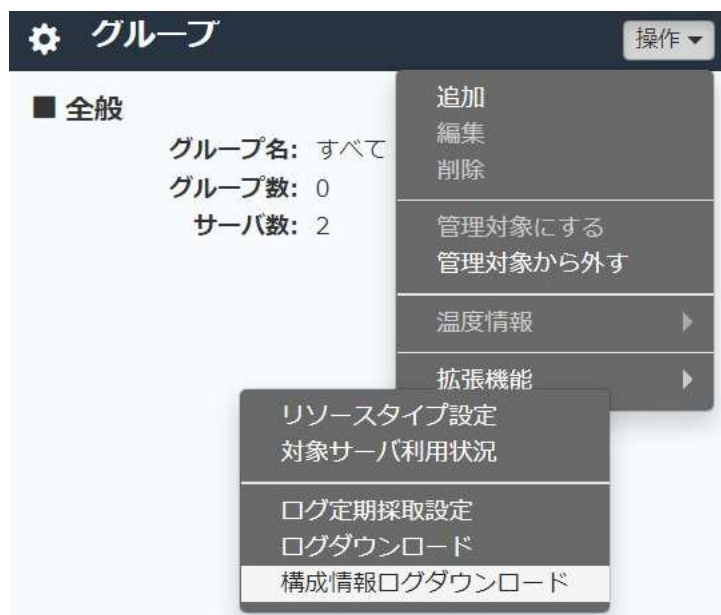
ファイル	ファイル名	説明
	>.zip	イルです。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。
ログ内訳リスト	LOGLIST.txt	本 ZIP ファイルに含まれる“運用ログ”，“稼働状況ログ”の取得成否を、サーバーごとにまとめたリストです。 内容の詳細は、4. 3. 7 項を参照してください。

注意：

ダウンロードした ZIP ファイルに含まれる運用ログと稼働状況ログのファイル名の<日時>が、現在時刻から極端に古くなっていないかを確認してください。運用ログは毎日 1:00 に、稼働状況ログは 10 分毎の間隔で、ログを採取しています。ログが古い場合、Simple Server Console - iL0 間の通信に問題が発生している可能性がありますので、Simple Server Console - iL0 間の通信を確認してください。問題が解決しない場合は、Simple Server Console 取扱説明書 構築編を参照して、Simple Server Console のログ情報を採取し、サポートサービスにお問い合わせください。

4. 3. 3 構成情報ログのダウンロード

ハードウェア安定稼働支援サービスをご利用のお客様向けに提供する機能です。サーバーの構成情報ログのダウンロードを行うためには、システムビュー画面で HA8000V/RV3000 のシステムを選択し、HA8000V サーバーのアイコンを選択して、詳細表示領域の[操作]ドロップダウンメニューから「拡張機能」-「構成情報ログダウンロード」を選択し、構成情報ログダウンロード画面を表示してください。





項目

項目名	説明
サーバ	選択したアイコンのサーバーの一覧が表示されます。

ダウンロードボタンを押すとファイルのダウンロードが開始されます。ダウンロードされたファイルの保存先やファイル名は Web ブラウザの設定によりますので、Web ブラウザのマニュアル等を確認してください。デフォルトのファイル名は、LOG_<日時>.zip です。

ダウンロードしたファイルは、ZIP で 1 つにアーカイブされています。ZIP ファイルに含まれるファイルの一覧は以下です。

ZIP ファイルに含まれるファイルの一覧

ファイル	ファイル名	説明
構成情報ログ	ghwi_<IP アドレス(※)>_<シリアル番号>_<日時>.hwi	サーバー装置の構成情報を記録したログファイル。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。

※英数字以外は'_'で置換されます

● 注意事項

- ・構成情報ログのダウンロードは、各装置から最後に採取した構成情報ログを収集します。
構成情報ログにドライバ情報も含めて採取したい場合は、構成情報ログを採取する時刻の 2:00 に、各装置の iLO と AMS が接続状態となっている必要があります。
- ・ダウンロードした ZIP ファイルに含まれる構成情報ログのファイル名の<日時>が、現在時刻から極端に古くなっていないかを確認してください。構成情報ログは毎日 2:00 にログを採取しています。ログが古い場合、Simple Server Console - iLO 間の通信に問題が発生している可能性がありますので、Simple Server Console - iLO 間の通信を確認してください。問題が解決しない場合は、Simple Server Console 取扱説明書 構築編を参照して、Simple Server Console のログ情報を採取し、サポートサービスにお問い合わせください。

4. 3. 4 ログファイル転送先サーバーに送信されるファイル

ログファイル転送先サーバーに送信されるファイルは以下です。

ログファイル転送先サーバーの設定(2. 3. 1 項を参照)の構成情報ログが「送信する」の場合、送信されます。Simple Server Console は転送したファイルの削除は行わないため、必要に応じて定期的にファイルを削除してください。ファイル容量は1 装置当たり最大約 200KiB です。

送信されるファイル

ファイル	ファイル名	説明
構成情報ログ	SSCHWI_HA8KV_<Simple Server Console サーバーの IP アドレス(※1)>_<システム ID(※2)>_<日時>.zip	サーバー装置の構成情報を記録したログファイル。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。
稼働状況ログ	SSCOP_HA8KV_<Simple Server Console サーバーの IP アドレス(※1)>_<システム ID(※2)>_<日時>.zip	サーバー装置の稼働状況を記録したログファイル。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。

※1 Simple Server Console サーバーの IP アドレスは以下のルールで決定されます。

- ・IPv4 アドレスと IPv6 アドレスがある場合は IPv4 アドレスを優先します
- ・複数ある場合は、文字列比較した場合に一番小さいアドレスを使用します
- ・IP アドレスの中の記号"."," ":"は"_"(アンダーバー)に置き換えられます

※2 システムに Simple Server Console が内部的に割り当てた数値です

4. 3. 5 運用ログに含まれるファイル

運用ログに含まれるファイルは以下です。

運用ログに含まれるファイルの一覧

ファイル	ファイル名	説明
構成情報ログ	ghwi_<IP アドレス(※)>_<シリアル番号>_<日時>.hwi	サーバー装置の構成情報を記録したログファイル。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。
IEL(iLO Events Log)	IEL_<IP アドレス(※)>_<シリアル番号>_<日時>.json	iLO によって記録されるイベントログ。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。
IML(Integrated Managemant Log)	IML_<IP アドレス(※)>_<シリアル番号>_<日時>.json	サーバーで発生したイベントの記録。障害の原因調査に有用なログ。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。

※英数字以外は'_'で置換されます

4. 3. 6 稼働状況ログに含まれるファイル

稼働状況ログに含まれるファイルは以下です。

稼働状況ログに含まれるファイルの一覧

ファイル	ファイル名	説明
稼働状況ログ	ghwo_<IP アドレス(※)>_<シリアル番号>_<日時>.hwo	サーバー装置の稼働状況を記録したログファイル。 日時は YYYYMMDDhhmmss の形式です。

※英数字以外は'_'で置換されます

4. 3. 7 ログ内訳リストのフォーマット

ログ内訳リストのフォーマットを示します。

<シリアル番号>	運用ログ : xxx	稼働状況ログ : xxxxx
<シリアル番号>	運用ログ : xxx	稼働状況ログ : xxxxx
:		

詳細

項目名	説明
シリアル番号	サーバーのシリアル番号です
運用ログ	「あり」「なし」のいずれかになります。 運用ログがある場合に、「あり」になります。
稼働状況ログ	「あり」「なし」のいずれかになります。 稼働状況ログがある場合に「あり」になります。

4. 3. 8 ログファイル転送先サーバーの要件

ログファイル転送先サーバーの要件は以下です。

- ・使用するプロトコルは、FTPS(File Transfer Protocol over SSL/TLS)のパッシブモードです。
- ・アップロード先のディレクトリ名として「SSC」を使用します。
- ・ログファイル転送先サーバーのユーザー名/パスワードに指定するアカウントには、「SSC」ディレクトリに対する読み書きアクセス権を付与してください。

5. リファレンス

5. 1 よくあるご質問

(1) 画面表示が崩れている
(2) エラーページが表示される
(3) 操作の実行に必要な権限を知りたい

(1)画面表示が崩れている

使用可能な Web ブラウザを使用していることを確認してください。使用できる Web ブラウザは、「1.2. 事前準備」を参照してください。また、Web ブラウザの表示範囲を小さくしすぎた場合にも画面が崩れる可能性があります。

(2) エラーページが表示される

次のようなエラーページが表示される場合は、Web ブラウザに保存されたクッキーと Web サイトデータを削除して、再読み込みしてください。



(3) 操作の実行に必要な権限を知りたい

操作と権限（オーナー、メンバ、閲覧）の関係を次に示します。

【凡例】 ○：できる、 ×：できない

操作	権限		
	オーナー	メンバ	閲覧
ログイン/ログアウト	○	○	○
基本情報	○	○	○
メンバの追加・編集・削除	○	×	×
システムの追加・編集・削除	○	○	×
ディスカバリの実行/管理対象への登録	○	○	×
構成図の確認			
基本表示	○	○	○
詳細表示	○	○	○
表示切り替え	○	○	○
ツリー表示	○	○	○
温度情報の表示・非表示	○	○	×
グループ化設定の追加・編集・削除	○	○	×
ジョブの実行・確認			
ジョブの実行	○	○	×
ジョブ一覧の確認	○	○	○
ジョブの操作	○	○	×
タスク一覧の確認	○	○	○
タスクの中止	○	○	×
JP1/A0 連携機能			
vSAN ローリングアップデートの準備・実行	○	○	×
サーバーFW/SW バージョンの取得	○	○	×
拡張機能			
リソースタイプの設定	○	○	×
リソースタイプの確認	○	○	×
対象サーバー利用状況のダウンロード	○	○	×
ログ定期採取の設定	○	○	×
ログ定期採取設定の確認	○	○	×
ログダウンロード	○	○	×
構成情報ログダウンロード	○	○	×
構成情報のエクスポート	○	○	○
構成履歴の保存	○	○	×

操作	権限		
	オーナー	メンバ	閲覧
温度情報のエクスポート	○	○	×
設定のエクスポート/インポート	○	×	×

5. 2 注意事項および制限事項

本システムを使用する上での注意事項と制限事項です。

- ・ 本システムで利用できる文字は、基本多言語面(BMP)範囲内の Unicode 文字です。範囲外の文字コードを使用した場合、予期しないエラーが発生することがあります。
- ・ 一時的な通信障害、リソース不足および処理の競合が発生した場合に、「このページに到達できません」や「管理者へご連絡ください」というエラーページが表示されることがあります。エラーページが表示された場合、しばらく時間をおいて再度実行してみてください。また、Web ブラウザに保存されたクッキーと Web サイトデータを削除して再読み込みすると、改善することがあります。
- ・ ダイアログを表示したときに、テキストボックス内にカーソルが表示されているのに、選択状態(テキストボックスの枠が水色)にならずに文字入力ができないことがあります。この場合、テキストボックスをマウスでクリックするか、Tab キーをクリックして選択状態にしてから文字を入力してください。

－以上－